

平成28年第4回（9月）出雲崎町議会定例会会議録

議事日程（第2号）

平成28年9月16日（金曜日）午前9時30分開議

第 1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員（10名）

1番	宮下孝幸	2番	中野勝正
3番	中川正弘	4番	高桑佳子
5番	田中政孝	6番	三輪正
7番	加藤修三	8番	諸橋和史
9番	仙海直樹	10番	山崎信義

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	小林則幸
教育長	佐藤亨
会計管理者	佐藤 佐由里
総務課長	山田正志
町民課長	池田則男
保健福祉課長	河野照郎
産業観光課長	大矢正人
建設課長	玉沖馨
教育課長	矢島則幸
町民課参事	山田 栄
総務課参事	権田孝夫

○職務のため議場に参加した者の職氏名

事務局長	坂下浩平
書記	佐藤千秋

◎開議の宣告

○議長（山崎信義） ただいまから本日の会議を開きます。

（午前 9時30分）

◎一般質問

○議長（山崎信義） 日程第1、一般質問を行います。
質問の通告がありますので、順次発言を許します。

◇ 加藤修三 議員

○議長（山崎信義） 最初に、7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） リオオリンピックでは、日本選手が活躍し、史上最多の41個のメダルを獲得し、国民に喜びと感動を与えました。特にレスリングにおいては、ラスト数秒で逆転勝ちをし、最後まで諦めないことを実証してくれました。2020年東京オリンピック及びパラリンピックでは、さらなる活躍を期待するところであります。

なお、国内において台風10号の記録的な豪雨で東北、岩手、北海道などでは河川の氾濫や堤防の決壊で家屋の流失、倒壊などで大きな災害が出て、高齢者施設では多くの方が亡くなりました。また、不明者も多く出て、捜索が続いておりますが、亡くなられた方には心よりお悔やみを申し上げますとともに、早急な復旧を願っております。

なお、当町は地すべり、崖崩れ、土石流の土砂災害の危険性が高い地域が多く、大雨になったとき避難準備情報の発令のタイミングや夜間、停電時の避難方法、避難訓練の見直しも必要と考えます。

これから質問に入らせてもらいます。国が5年前に実施している高齢者の生活と意識に関する国際比較調査では、日本の高齢者の4人に1人が友達が一人もいないという結果が出ており、アメリカ、ドイツなどは10人に1人ぐらいであり、日本では家族以外に相談あるいは世話を話し合える親しい人がいるのかの問いに4人に1人がいないという結果です。前回当集落の人口構成について説明しましたが、高齢化率は79%で、高齢者の夫婦が夫婦のどちらかが亡くなったり、施設に入ったりしたとき、特に男性は食事、洗濯、家事はほとんどできず、外出するにも服がどこにあるかもわからず、大変苦勞している人が多いと思います。よく私は、仲間におっかさんがいねなったら、あんたがよっぽど仕事をしていると思っているけども、奥さんはそれプラス朝の飯、夕飯、昼飯、風呂の掃除、それからおやじがどこか出ていくときの服を出したり、また御飯のときでも、おい、あれ出せ、手が届くにも、これ出せと言ってもはい、はいとよくやっていますけども、本当にいなくなったら、それもおまえできるのかといたら、ほとんどできねえというのは仲間内での回答です。

そういう中で奥さんを本当に大事にせないけないなというふうに思います。

高齢者保健福祉計画の町で暮らす上での希望アンケートでも、話し相手が欲しいが上位を占めており、国の調査でも65歳以上のひとり暮らしの男性のうち、会話をしたのが2週間に1回以下は6人に1人となっています。夫に先立たれた女性は、ある期間落ち込みますが、それ以降は意外と伸び伸び自由に暮らせるような気がします。男性は、世間話をする人もなく、隣近所に遊びにも行けず、友達もだんだんとなくなってきて、会話もなく、本当に虚脱感と孤独感にさいなまれている人が多いのではないかと思います。例えば夕食を食べた後、寂しく酒を飲みながら、連れ合いの遺影を持って、母ちゃん、笑っていねえでしゃべってくれやと言う人もいますし、いつも遺影を自分のそばに置いて寂しさを紛らわす人もいます。そして、今まで特に元気だった人がやはり急に元気がなくなってきて幻聴を覚えたり幻覚を覚えて、それで入院して亡くなってくるといような人が私の町内におります。そのような状況の中、高齢者の心のケアを強化することは必要と思いますので、町長、この件についてどう考えますか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） ただいま加藤議員さんから尼瀬地区の実態に照らし合わせながら、当出雲崎町の独居高齢者のひとり暮らし、どう対応するかというご質問でございますが、本町におきましても65歳以上のいわゆる高齢者のひとり世帯が400ございます。全世帯数の22.5%、4世帯に1世帯がそういう実態だということでございます。この辺を私たちも深刻に受けとめながらいかに対処するか、いろいろ皆さん方のお力をかりながら対応しておるところでございます。さらに、この高齢者の世帯というものは年々増加するという傾向でございます。特にこの中でもひとり暮らしの高齢者の地域社会からの先ほどお話が出ましたが、孤立化をいかに防止するかと、これは町の喫緊の課題だということでございますので、地域での見守りあるいは災害等々の支援体制の構築というものをしっかりとやっていかなきゃならないということでございます。このためには町の施策もさることながら、地域全体の見守り、お互いの声かけあるいは気配り、あるいは助け合いと、こういうものが基調になってこなければならぬと私は思っています。町民一人一人の自主的あるいは主体的な取り組みはもちろんやっていかなきゃならないこととありますが、あわせましてやっぱり行政區長さんあるいは民生委員の皆さん、あるいはNPOの皆さん、それぞれの皆さんから、あるいはまた老人クラブ、きょう婦人会の皆さんおいでいただいておりますが、そういう皆様方大変なご協力を得ながら地域全体を見守り、またこれらの活動を進めてまいらなきゃならないというふうに考えております。

また、閉じこもり予防とか社会参加にかかわる地域においての充実した生活をさらに送ってもらうという観点からいたしまして、実質ふれあいの里でもコミュニティセンター事業等も進めておるわけでございますし、また町内5地区で実施する転倒予防教室、あるいは歩いて参加できる集落単位で実施する地区サロン集会等々を進めているわけでございます。このほか介護予防あるいは健康

増進、地域の居場所づくり等々を行政として支援していかなきゃならんというふうに考えています。今後これらの事業を実施していくとともに、現在11カ所で開催しております地区サロン事業、これ非常に私は有効だと思っています。これを町内全体に展開をしていかなきゃならんというふうに考えています。気軽に立ち寄り、そしてまた居場所づくりあるいは地域のきずなの再生というものを進めていかなければならん。これは言葉じゃない。お互いが前向きな姿勢の中で、特に議員さんもそうです。しっかりとそういうことに対する対処をやっていただきたい。私も全力を挙げて頑張ります。

○議長（山崎信義） 7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） 今町長が言われましたように、出雲崎の高齢者在宅サービス、これ本当にありがたいことです。この中では、やはりある程度自立できる人が意外と対応になっていると思う部分があるんです。なぜかという、もう自分の中に閉じこもっちゃうと情報が出ない。そういう人たちをどうやって救うかということなんです。今まで元気だった人が急にやっぱり家から出ない。近所で、これきょうずっとオートバイ出ないなというような話やっぱりして、向かいの人がうどん持っていったり、私たちも地域でやっています。やっている中ですが、やはりがががと悪くなっちゃうともう入院まで、本当に数カ月前まで元気だった人がそういう状態になると、これはおかしいんじゃないかと。その中では、やっぱりいろんな介護施設がある中でそういう状況、要するに在宅介護、この中で、あれっ、この人だんだんおかしくなっている。例えば言うんです。草刈りでNP Oから来た人も、あそこの家のじいさん、全然元気ねえなつたとわかるんです。そういう状況がわかるということは、やっぱりこういう中でもつかまえて、もう少し何かできないものかと。入院しちゃうとほとんど自立、復帰で帰ってくる人ほとんどいない。仏になって帰ってきている。これは、よくないなと思うんです。だから、その辺を、病気になってからどんどん、どこの施設に入るんだ、システムの中でこうする、ああするということよく来ていただいています。ありがたいことです。だから、そうなった、そう何回も来るとやっぱり心開くんです。本当からいくと、その前から何かをして心を開いて、皆さんがこうやって苦しんで孤独感にさいなまれている人たちをどうやってそこから一歩でも外に出れるか、そういう体制をつくってもらいたいということなんです。今言われたようにこれがある、それは本当に歩ける人はおめさん来なさい、来なさいと出れるけども、行きたくない、自分の気力もない、もう脱力感のある人はこれ出たくない。その人たちをどうやってすくい上げるかということも必要と思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 申し上げますように、加藤さんの実態等々のご報告をいただいておりますが、私は年末約100世帯以上のひとり暮らしの皆さんを訪問しています。私は、そのとき言葉じゃない、実際にお会いして元気だと本当に私は驚いています。そういう中における実態の中で、いろいろお困りの方もございます。そういう者に対する私たちはさらに目配り、気配りをしていかなければなら

ない。そして、私はもうこれから核家族化時代だと、大事な時代を親に育ててもらって、大きくなったら俺一人で自立したんだというような気持ちを捨ててもらわなきゃだめだ。そういう意味で啓蒙していかなきゃならん。子供さんはどうしているんですか、親をどう考えているんですか、そういうものの認識を高めてもらわなきゃ。私は、場合によってはこういう実態、加藤さんのそういう実態の中に子供さんが面倒を見ないというんだったら、町として対応を迫る。そういうものに対する皆さんも遠く離れておられれば、自分の育ててもらった親に対する愛情と感謝の気持ちをつくっていただかないと、町としてやります。行政なりそういうものは全力を挙げてやっているんですから、そういうものをしっかりと応えてもらわなきゃだめだ。私は、そういう対応をしていきたいと思っています。

○議長（山崎信義） 7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） 私たちもそういう向かいの人、連絡網をとって、そこの子供さんのところにこうだから、あだからというようなことは当然やっています。そういう中で、地域だけでやればいいのかということじゃなくて、やはりもっと前からそういう人たちが心を開いた中で本音をしゃべれる、そういう何か体制はできないかと。例えばある人は、今、年寄りになったからつき合っているんですけども、1週間か2週間に1遍ぐらい顔を出しに行っているんです。そうすると、やっぱり行くといろんな話をして、まだ帰るな、まだ帰るなと、ラーメンとるから帰るな、一日いてくれ、いてくれ言う人が多いんです。それで、本音を言うと、あとから電話でおらちの電気が消えたとか、それも本当に長いつき合いがあるから本音で言えるというような人が現にいます。何かそういう環境をそういうふうにつくれないかなと。私たちが隣近所にいたって、やっぱりある人がそういうふうになって、おめさん、医者行きなさい、もう飯も食べらんねえ、気持ち悪いと、いや、この医者やぶだから嫌だとか、なかなか本音でそうだな、そうだなということがない。最終的には立川までもう即入院だというような状況ですので、やはり長いつき合いの中で心を開かれる環境をつくるというのが必要かなと思います。例えば私たちは数年前島根県の奥出雲町行きました。その中で高齢者を対象に、コミュニケーションをとるためにテレビ電話でどうしたね、どうしたねと毎日のようにある程度電話かけたり、血压どうだねという中でやっぱり最初はしゃべらなかつたりいう人もいた中で、だんだん、だんだん気持ちがわかって、こうしたんだけど、おらここ今調子悪いんだけどというような体制をとって、国の何とかいう、特別そういうのでモデルとしてやっているみたいなんですけど、そういうふうコミュニケーションをうまくとっているということもあるんですけども、この辺も考慮していただけないかなというふうに思います。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 今IT時代で、今言われるテレビ電話なりいろいろ対応しておるということですが、私はやっぱりそれ以前の問題として、今の時代のいわゆる先端のそういうものを利用することもさることながら、私は原点に返った、そうでしょう、いろいろな状況をあんた知っておられる。

もしそういう事情があったならば、民生委員なり、あるいは地域の皆さんとの呼びかけ、あるいは町に呼びかけていただきたい。そういう皆さんがどんな実態なのか、できるだけ目配り、気配りしているんです。そういう実態を本当に把握したならば、民生委員なり町にこういう方もおられるんですよ、これに対して町はさらなる見守り、あるいは対応してくれ、こういう一つの助言をしてもらいたい。これが大事です。そういう機器を使つての対話よりも本当に人と人との触れ合いです。コミュニケーション。そういう一つの触れ合いが大事だ。そういうものに対して努力していただきたい。全力を挙げて町は対応してまいります。

○議長（山崎信義） 7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） 今町長言われますように、私のほうもそういうような感じで幻聴、幻覚が出た、加藤さんどうしよう、警察呼んだほうがいいか。私たちも行って、それからすぐ民生委員に相談したり、ここの保健福祉課にも連絡、みんなコミュニケーションとり合っています。私はやっています。それ以上やらなきゃいけないかもしれないですけども、僕はその前に、もっと前に何かコミュニケーションがとれる内容ができないのかなというふうに思います。があがあと落ち込んでからもう最終的には病院ですねというようなのが非常に残念だというのが我が集落の内容です。そういう中でもっと長くコミュニケーションを、前々からコミュニケーションをもっととって、情報がしっかりとれるという体制をとってもらえないかというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 私は、加藤さんのおっしゃることもわかる。きょうここにおいでの皆さん、努力されています。地区サロン、呼びかけているんなどころにお茶飲み会をしておられる、そういう皆さん努力をされておるんです。私はそれを多としたい。そういうものをさらに輪を広げたい、これが基本です。そういう社会に尽くし、そして晩年を孤独にさいなまれている、そういう人たちに対してはもう本当に私たちは全力を挙げて応援していかなくやならん、わかっています。そのための地区サロンなりいろいろやっているじゃないですか。いろいろ機会をつくって、そういう人たちは出てこないんです、どんなに呼びかけても。その辺をしっかりとサポートしながら、皆さんからも、本当にそういう機会をつくっておるんです。また、相談の窓口はあるんです。積極的に多用していただきたい。いかに組織をつくり、いかに行動してもその人が、まずこういう例えば飲めない水を無理矢理飲ませるといふわけにはいかないです。その辺を温かく静かに持ち上げながらそういう気持ちを持っていただくような努力は行政もさることながら地区の皆さん、きょうここにおいで皆さんみんな頑張っているんです。そういう努力していかなくやならん。そういう組織だけをつくるということじゃない。そういうものを基本に置きながらお互いが助け合いなり、そういうものに対する、本当に真剣に真面目に私は取り組んでいかなくやならんと思っています。

○議長（山崎信義） 7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） 言われますようにサロンがあったり、そういう形がありますけども、そういうことをより強化していただいて、サロンとかに出れる人は問題ないんです。出れなくなった人をどうしようかという中で、やはりそういう人も含めてサロンとかいろいろある中でもう声かけ合いして、できるだけ出てもらってこもらない。家にこもって、最後は家で横になってもう動けないというようなことのないような形をお互いにつくっていってもらうように努力していただきたいというふうに思います。

次に進みたいと思います。認知症は、高齢になればなるほど発症する危険は高まり、認知症は特別な人に起こる特別な出来事ではなく、年をとれば誰にでも起こり得る身近な病気と考えます。65歳以上の認知症高齢者は、2012年度は460万人、2025年には700万人と1.5倍に増え、5人に1人で、軽度認知症を含めると認知症及び予備群が高齢化の進展に伴い、さらに増えると言われていています。当町の65歳以上の高齢者の高齢化率は、全国平均26%に比べ、約40%くらいと高く、後期高齢者の高齢化率も23%で認知症発症率も高くなってくると推測します。認知症の知識がないため、日常生活で今までできたことができず、鍋を空たきをしたり、言われたことができなくなったり、暴力を振るわれあざができたたり、暴言を吐かれたりしたことも私は見ております。家庭でちょっとおかしいと感じて医者に行ってみたらと言っても本人は自尊心があり、何で私が行かなきゃだめなのよというように拒否されることは結構あります。その中で、ある人はやっぱり自分も物忘れがおかしいから、一緒に行こうと言って相手を傷つけないようにして言って、何回かトライし、それでもだめで、保健福祉課のほうに連絡をとってやっと思ったという人もおります。その中では、やはりちょっと認知症が進んで遅くなっちゃうというのが現状であります。その人の対応としては、調理用のガスコンロをIHにかえて服に火がつくのを防止したり、空たき防止に努めたり、会話も認知症になってくるといろいろ怒ったり、物がなくなったとかどうのこうの言って、私じゃない、私じゃないと言ったりしますけども、認知症知識を持ったがためにそれなりの優しい対応ができるということができました。特に高齢者に認知症を知ってもらうため、普及の啓発、認知症の初期受診の推進と早期対応で認知症推進を抑制し、認知症の人、家族の相談など、温かく見守る認知症サポーターの養成、認知症ケアに対するすぐれた学識と高度の技能及び倫理観を備えた認知症ケア専門士を養成し、また徘徊対策としてGPSによる位置体制も考え、認知症になっても本人や家族が安心してこの町で暮らせる町づくりをする考えはございませんか。町長の考えをお聞かせ願います。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 認知症問題、これ大きな社会的な問題になりつつあるわけですので、加藤議員さんがおっしゃるようにはっきりとした対応をしていかないと、大きな事故につながったり、本人も不幸なまた立場に陥るといようなことですので、全力を挙げて対応していかなくやならんというふうに思っております。本町におきましても先ほど来から申し上げていますが、認知症高齢者数、約250人と考えています。高齢者のうちの7人に1人以上は、認知症による生活の

しづらさがあるとされておりますので、さらに今後増加する傾向にあるということも私たちは憂慮しているところでございますので、認知症対策にはお話にもありますように早期発見あるいは早期診断体制の構築、認知症に対する正しい知識の普及とともに介護、医療サービス等々が連携しまして、総合的に提供される体制づくり、この中でしっかりとこの認知症対策、さらに対応していかなくやならんということでございます。認知症の予防対策といたしましては、認知症の進行防止、あるいはそういう状況を引き起こすところの脳血管性認知症の原因となる疾患予防、これも大事でございますので、対応していかねばならない。そのための認知症予防教室あるいは健康教室、健康相談とか、あるいは訪問指導等を行っておるというのが現状でございます。

さらに、やっぱり認知症への理解を深めるための普及啓発、今まで今お話がありました認知症サポーター養成講座等々も開催をしておるということでございます。また、養成講座には中学生、共通参加者あるいはボランティア団体、企業など、各町内と各層の団体を対象に行いまして、これまで約800人のサポーターを養成しています。今後も年間100人を目標にサポーターの養成を行ってまいりたいということで、積極的にこれらの事業も進めてまいりたい。そのほか認知症予防講演会あるいはもの忘れ・こころの相談会などを毎年行うとともに、認知症を正しく知り、早期相談、これにつながるような認知症ケアパスを作成して、全世帯に配布をいたしておるということでございます。

今後これらに加えまして、認知症総合支援事業を実施します。この事業は、認知症の初期集中支援チームと認知症の地域支援推進員、これを配置しまして、総合的に認知症支援体制というものを構築してまいりたいというふうに考えております。認知症初期集中支援チームは、認知症の専門医師1名、保健師、社会福祉士等の専門職2名、計3名以上のチームを編成いたしまして、早期診断、早期対応の支援体制をしっかりと整備してまいりたいと思っています。既に認知症サポート医には新潟県認知症疾患センターとして指定を受けております三島病院の田中先生から大変ご承諾をいただいております。また、認知症支援推進員は専門の研修を受けた職員を役場または地域包括支援センターに配置をしまして、医療介護等の連携強化に向けて努力していかなくやならん。連携を強化してまいりたいと思います。これらの事業は、平成30年4月から実施すべく現在準備を進めておるところでございますし、加藤議員さんのご提案になりました認知症ケア専門士につきましては、本町ではやすらぎの里に3名の方がいらっしゃるようですが、このような専門職とともに連携をとりながら総合的な認知症体制を進めてまいりたいと思います。

今徘徊という言葉は使っちゃならないと言われております。やっぱり老人のその方が目的を持って外出しながら、その目的が何であったかということで動き回る、そういう方々を対象にするということが今言われておるわけでありますが、確かにGPS、その辺は私はやっぱりそういう家族もそうですし、市民の人も大変心配をされるわけでございますので、GPSの問題もどう実態でやったほうがいいのか、あるいはそういう方々に対する番号をつけてどうするか、いろいろ話題に

なっていますが、これはやっぱりプライバシーの問題もあっていろいろ課題があるようでございますので、その辺加藤さんの提案につきましてはひとつまた実態を把握しながらそういう方々、家族との相談をしながら、有効である可能性は十分あると思いますので、また検討してまいりたいと思っています。

○議長（山崎信義） 7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） 今GPSのことで町長のほうから話がありましたけども、私の義理の父も認知症になったと、うちのおふくろも施設に入ったときに認知症の方がおられたということで、認知症の人は、徘徊という言葉はいけないということで、例えば施設に入ってエレベーターで2階に行くと来てくるんですけど、帰りに暗証番号を押してエレベーターを降りないとその人はエレベーターから降りて徘徊する、済みません、どういう言葉使っているのか、動き回ると、外へ出て。それで、暗証番号を打ってもそういう人たちはどこかで見てわかるんです。次行ったときは、もうこの番号は使わないと、階段から、鍵をやるから鍵で降りてくれというような、例えば家に閉じ込めておいてもやっぱり出たいときには何が何でも出るというようなやっぱり現状があります。それで、いろいろ捜し回っているという現状はありました。あと、父の場合はやっぱり認知症というはまだどうなのか、周り近所には病気になって恥ずかしいというのがあったと思うんですけど、だけでも柏崎ですけども、近辺の人におやじさん、これなったからというふうなのを近所中にもう皆さん言ってあるから、ああ、あの人またあそこの道路歩いていたよということですぐ連絡もらって、すぐ連れてくると。その前やっぱり柏崎消防署の捜索の手を借りたりとかいうことはありましたけども、やはり認知症というのは周りの人も知っていないとどこか行ったときに捜し切れないですから、その辺もいいのか悪いのかわからないんですけども、そういう一つの例がありましたし。今町のほうもいろいろ認知症のパンフレットを出したりして、初期のいかに早く知識を広く知ってもらいたいということで、より強く強気に啓発していただきたいと思っています。

ただ、一つここで問題になるのがやはり誰でも俺は頭がおかしい、この言葉はいいのかわかりませんが、認知症じゃないんだと、だからそんな俺は絶対違うと、そういう自尊心があつてなかなか行かないというのがありますので、この辺をどうクリアしていくか、どうやって知識を覚えてもらうか、どうやって初期診断してもらうかというのを一つのもう一歩力を入れてやっていただきたいと。そういうことによって、本人もそうだし、家族もいろんな器具をかえたり、そんなもんしなくても済むかもしれませんので、そのように強力にお願いしたいと思っています。

次に進みます。当町で老後生活をしていく上で、車やバイクは重要な手段でありますけども、どんどんと年をとっていくに身体機能は確実に低下し、運転への不安が高くなり、運転免許を返納する人も出ています。隣接市の病院や買い物に行くにしても交通費の負担も多くなり、その結果、行動範囲も狭くなり、だんだんと家にこもるようになるのではないのでしょうか。例えば高齢者に買い物を頼まれたとき、おめさんも一緒に来なさいということで連れていけば、目的以外のものを買ったり、

ほかのものに興味を持って、家帰ったらこれしよう、あれしようと楽しく買い物してモチベーションが当然アップします。私たちもそうだと思います。ウインドーショッピングしても気持ちよくなりますよね、銭がないんで買えないとかありますけども。このように積極的に外に出る機会をつかって、生活範囲の維持と利便性の向上、社会参加の促進をするため、過去宮下議員から要求で当初よりタクシー利用券は増額されていますが、さらなるタクシー利用券の増額の考えはないか伺います。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） タクシー券の利用料金助成事業、これにつきましては議員の皆さんあるいは当事者の町民各位からいろいろご要望ございました。そういうことについては、できる限り要望に沿いながら増額、増額といいたいまいしょうか、ある程度お応えをしまいたったわけでございます。さらなる増額ということでございますが、今タクシー券の助成制度につきましては県内をずっと見渡しましても出雲崎は相当の高いレベルにはございます。そういう意味でさらに高齢化が進んで、今言われる実態は増額をしてくれというお声もあろうかと思いますが、最近私ちょっと余りタクシーをいっぱい出してくれというような話は聞いておらないんですが、しかし利用される方は非常に喜んでおります。ということは、さらにやっぱりもう少しそういう制度について充実をしてくれという声なき声もあろうかと思っております。

ただし、申し上げますように実態としては出雲崎は他町村と比較していただいても相当の高いレベルで助成措置をしておるところでございますので、今そういうご要望もございますし、また利用されている方々のニーズ等もしっかりとつかみ取りながら、できる限りお金よりもやっぱりそういう方に先ほどから申し上げている、我々行政も町民に寄り添いながらやっぱり相互扶助の精神というものは大事だと思っておりますので、その実態をもう少ししっかりと把握をしながら検討してまいりますというふうに思っております。

○議長（山崎信義） 7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） やはり今町長が言われましたように、他の自治体よりもこれについては特化していると、この特化を会社でいえばリーディングカンパニー、うちの町はこれについてはよそに負けないぐらいもっともっと進んでいってもらいたいというふうに思う。その目的は、やっぱり高齢者をどんどん、どんどんよそを見ていろんな、町でもいいんです、町の中でも。やっぱりいろんな興味を持って、刺激を持ってもらって、より元気に一歩でも外に出て、いろんな人と話して、モチベーションをどんどん上げていってもらうために、そのような形を今以上にとっていってもらうと。その中に町長言われましたように、いろいろまた聞き取りをやった中でやっていくと。私も聞き取りは一応やっている中で、やはり一番問題になるのは病院に行くというので更新するには通年で定期的に通う人については再交付を2万円ですが、しますよというような形だったと。なかなか通年通うのか、例えばショートの3カ月間になってよくなったのか、いろいろあるんですけども、その

ために1カ月、例えば長岡に行ってくれば1回か2回で終わりなわけですがけれども、そういう人もおられて、もうちょい出してもらえねえかなというのもありました。あとはそのほかの方法として、新潟市ですか、市内ですけど、バスの運賃、65歳以上だか75歳、バスの運賃、自分のラウンドですから半額にしているということで、それについても評価があると思いますけど、それとかそれだけであればタクシーの乗ったときの運賃の要するに割引、これはもうトータル的に考えて、再度この町がこれについてはもうトップをいっているんだということでより以上に進めていただきたいというように思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 今ご意見もございましたし、町も普遍的に、画一的に助成をしているという実態ではございません。今お話がございましたように、それぞれタクシー券を利用する方のいわゆる生活実態を把握をしながら、できる限りそういう実態に即したタクシー券の助成をしているというところでございますので、満遍なく一律にどうするというんじゃなくて、今お話がございましたようにやっぱり個々で対応、通院とか……

〔何事か声あり〕

○町長（小林則幸） 例えば今ちょっと聞きましたら、透析等については特別また助成をしておるといってございまして、その実態に即応した中において、ただ何もかにも増額、増額じゃなくて、生活しておられる方々の実態に即して、その中においてやっぱり先ほどからちょっとお話がございまして認知症にしてもできるだけ長生きをして健康状態を保ってもらいたいためには早期にやっぱり医療機関、例えば町内のお医者さんなりにかかってもらうというのが大事なんです。そういう意味でできるだけそういう機会を得られるような皆さんがお気持ちになっていただくならば、そういう方に対するまた助成等も考えていかなきゃならんというふうには思っていますので、改めて実態をしっかりとまた再調査をしながら、またご要望等もしっかりとお受けしながら、そのご要望にできるだけ応えられるような形でまた検討してまいりたいと思っています。

○議長（山崎信義） 7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） 町長が言われたことは理解しました。ぜひとも対応していただけるものは対応していただきたいと、枠を広げる、ある枠については広げるものであれば広げてもらった中で町民が喜ぶ体制をとっていただきたいというふうに思いますんで。

次に、天領の件なんですけど、近年天領の里で岸辺に砂浜が広がりました。夏場は、家族連れや若者等の方が多く来て、芝生エリアや駐車場にテントを張って海遊び、バーベキュー、帰りにはバーベキューで使った炭、多くの空き缶や食べ残し、発泡スチロールなどが捨ててあります。駐車場が満杯になっているにもかかわらず、駐車場の車二、三台分の場所を占領してテントを張り、バーベキューをしたり、木にロープを張って服を干したり、芝生エリアのベンチをテーブルがわりにして、そこにテントを張ったりバーベキューをして芝を枯らしたりしています。水についても水飲み場の

水の栓はとめてあるんですが、その蛇口をペンチで回して、ホースをつけてシャワーをしたり、幾つものポリタンクに水をとったり、バーベキューなどおやめくださいという看板がありますけども、看板の前に挑戦的にバーベキューの残骸を置いていたり、夜中に花火をしたりしている状況です。この状況を町長はどう思いますか。お答え願います。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 天領の里をキャンプ場に使っているということに対するご指摘でございますが、これは天領に限らず、全国の観光施設でキャンプやバーベキュー等々の問題でいわゆる利用客のマナーの悪さが指摘されておるといところでございますが、キャンプ利用やバーベキューを禁止する自治体も出ていますが、天領の里に足を運んでくださったお客様を大切にしたいということで、天領の里の芝生エリアについては現状では訪れていただいた多くの方々から楽しんでいただけるような遊具等も設置してございますし、芝生の状態で開放しています。今後は、今ご指摘のような問題につきましては指定管理者でございますシダックスさんとも十分相談しながら、今後の対応を検討していきたいと。迷惑行為等が横行して他のお客さんや地元住民に不快な行為が頻発するというような状況になってまいりますれば、その状況等をしっかりと把握しながらバーベキュー、キャンプ等々はその芝生等における行為は禁止せざるを得ないかなというふうにも考えております。そういっても利用していただいている方々に、利用は大いにしてもらって、その中におけるマナー等についてはしっかりとやっぱり責任を持って、他人に迷惑かけたり、あるいは後の始末ができないような状況だけは回避するということについて、徹底的にご理解いただくような方策を考えていきたいというふうには思っております。

○議長（山崎信義） 7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） 町長が言われました点で、近接のところでバーベキューとか、そういうのをやっているところは、私は出雲崎から柏崎、みなとまち海浜公園まで調査してきました。どこもやらせていません。みんな禁止です。浜辺も禁止です。浜辺でのバーベキューもするなど、みんな看板が立っています。柏崎の海浜公園、ここでもキャンプを禁止、これについてはした場合は警察もちゃんと呼びますよというふうに出ています。うちのところは、椎谷のここからトンネルを降りたところは有料な海水浴場になっているんですが、そこでも要するにキャンプを禁止、バーベキューを禁止、7時には出ていってください、鍵をかけますというような形をとっています。うちなんかもう楽勝ですよ。ただ、それでやりたい放題、すぐ海、こんないい条件でこんな国道の横でただ、こんなラッキーな場所はない。それプラスごみまで山ほど置いていく。テントも張って、こうやってやっている。これは、ちょっとモラルの問題とかいう話じゃなくて、もう一歩進んだ話をさせていただきたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 各地の実態、今パンフ等でご紹介いただきながら、他ではそこまで厳しくやっ

ているのかなということ私を改めて認識をした次第ですが、再度その中で出雲崎も右倣えで直ちに浜辺におけるキャンプなりバーベキューを禁止するということもいかなもんかなというふうに考えています。即断的にわかりました、禁止しましょうということにはちょっと言えない。今日は観光協会の会長もおられますし、そういう皆さんのいわゆる意向等も十分お聞きしながら対応してまいりたい。全く最近、いろんな一つの変化出ておりますよね。私も出ていきますと、すごく出雲崎の天領は駐車場は満杯で人はもう大勢いると、おお、すごいことだなと思いましたが、とんでもないです、ポケモンGOの……

[何事か声あり]

○町長（小林則幸） バケモンじゃございませんでした。ポケモンGOをする人たちがもう物すごく集まっているそうです。駐車場も満杯でできない。そういう状況変化が出ています。そういう意味でいろいろな変化が出てまいりますので、さりとて何もかも禁止して出雲崎に来てもらっちゃ、そういうことしてもらっちゃ困るんだということじゃなくて、できるだけ受け入れ態勢をしっかりと整えながら、またマナー等も十分周知をして、周囲の皆さんに迷惑かけないようにやっていきなというふうに考えています。十分また実態をよく、加藤さんはしっかりとまた天領等を見守りしながらいろいろ実態を把握しておられますので、おっしゃることもご理解いただくんですが、きょうの一般質問でそういう話を初めてお聞きしたわけですので、改めてまたひとつ皆様方のご意見も徴しながら対応してまいりたいと思っています。

○議長（山崎信義） 7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） 今町長のほうから状況を見ながらと、私もそうなんです。来てもらって、どんどん来てもらってごみを落とさないで金を落とすしてくれと、町に。そうしたら、掃除ももっときれいにすると、もっと雇用を生んでもっときれいにすると。みんなで頭使いましょう。金を落としてもらう体制。これをやりたいただけなんです。その中で私はこの文章を思う前に8月27日にですか、天領の里管理下内でバーベキュー禁止という看板も1つ出ています。出ているんです。ですから、その辺も考慮しながら、周りの市町村の状況も見ながら対応するべきは対応する。ただし、人は、交流人口はもうウェルカムですから、金を落とすしてくれと。うちらも掃除するし、雇用もどんどん生まれるように、年寄りの雇用が生まれるようにしたいと思います。

ただ、一番やっぱり思うのはうちの町の水道、これは例えば群馬のほうからこっちに来た人したら水道料は倍高いと。そんな中で勝手に盗水までしているんです。こういうのは許されるかと。私は、船まつりのときそれ偶然やっていたから、何なんだおまえと、名前とあれ言えと、すぐやめろというような形でやめさせました。すぐ役場に電話しました。そこは、もう完全に止め栓しろと、要するにプレイヤーなんかであける、俺だってあけられる。それで、長い筒のタイプのやつ、あれだって栓をスーパーで買ってくればあけられる。あんなのにしたってもう問題外。それをとめ栓いってなかなかとめ栓しねえ、町は。こんな水をただでやるんなら、おらちの水ただでくれと言

いたいところです。それぐらいやっぱり井戸水ですから、おいしい水だ言うんです、来た人は。やっぱりそんな盗水されるような体制もうとっちゃいけないし、その辺もきちんとやらなけりゃいけない。蛇口なんかもっときちんとするべきものをもう少し真剣に考えるべきかなというように思います。その辺は、町長どうお考えでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 加藤さんおっしゃるように、最近のやっぱりそういう海水客あるいはいろんな皆さんが大勢おいでいただけるんですが、中にはそういうふらちな皆さんもおられるということは十分承知しております。例えば海水浴に来て、いわゆるシャワーをする。シャワーをするには車の上にもう大きなポリタンクを持ってきて、そこに町の水道水を入れまして、そして海から上がってくるとそれで体洗ってというようなこともある事実はあるんです。だから、そういう方々に対する、加藤さんは率直にそういう方々に対して注意を喚起すると、これ大事なんです。町民の皆さんもそういう事実を見ながら注意するというのはなかなか勇気の要ることでございますし、そういうことについてのこれから見守りなり、また町民各位からもしっかりと目配り、気配りしていただきながら、そういう方々に対しては反省をしていただいて、来ていただくのは結構なことですから、ぜひおいでいただきたいが、そういうことについてはひとつ注意をしてもらいたいというような、注意喚起をするというようなことも大事かなと思っています。マナーの向上なり、そういうものに対する注意勧告をするような何か看板等もしっかりと整備しながら今後進めてまいりたいと。そういうものがあれば、こういうことなんですよと、これをあなた見ておられますか、言葉で言える。そう言えばその利用される方々も反省をされるんじゃないか。事後もそういうことないということにつながるんじゃないかと思っておりますので、そういう点も含めて十分検討して、そういうことのないようにひとつ町としても進めてまいりたいというのは思っております。

○議長（山崎信義） 7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） 今そういうマナーの問題があって、看板等も立てると言いましたけど、私も説明ありましたように看板立てた横にごみとか炭を挑戦的に、俺から見ると、彼らは違っているかもしれない。そんなして置いていくんですから、やっぱり立てるんであれば、それなりにもっと目立つところに幾つか立てて対応していただきたいというふうに思います。

次に、今の問題含めて対策として1つなんですけども、夏の期間中、巡回対応、これを土日でもいいですし、連休のときでもいいし、本当夏場のある期間、こういうのは巡回体制をとって、このようなモラル違反の注意というふうな形でパトロールする考えはありませんか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 実施しながら管理するというご提案でございますが、天領につきましては毎朝9時ぐらいから施設の点検と清掃を兼ねながら巡回している。あわせて、もちろんでございますが、トイレの清掃等も実施していますが、何かあれば天領の里からすぐに町担当者に連絡はあるので、

現在町としては今定期的に巡回するという事はしておりませんが、今ご提案のあるようなそういう問題に対しましては、今後指定管理者である、天領だけじゃないわけです。海岸にかかわる今のようなごみの問題とかいろいろあるわけでございますので、そういうことにつきましてはうちの職員が対応するというか、うちの職員ももう夏の期間は私驚くほど海岸清掃に行っただごみを持ってくる。もうこれ以上職員にというわけにはまいらない。そういう中でボランティア的な、ボランティアだけではないと思うんですが、そういう方々も含めてそういう巡回体制、夏はとりながらまたひとつ美観の環境整備に努めていくということも考えられるんじゃないかと思っておりますので、その辺はまた実態に即しながら、検討しながら対応してまいりたいと思っております。

○議長（山崎信義） 7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） ぜひその辺は考慮願いたいというふうに思います。

次に、天領の第3駐車場、これは国道のすぐ横でいつもきれいに管理されている駐車場と当然広場があります。砂浜があつて、トイレがあつて、駐車場も無料で、24時間開放しています。このような好条件の所を期間限定の有料キャンプ場にして、維持管理費協力金をいただく考えはないのか、これについてお伺いします。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 現施設の中に有料キャンプ場ということは考えていません。それは、有料キャンプ場になれば、それなりの施設と色々なものを完備しなきゃならんということを考えますと逆に目的に相反しますので、今の現状の中では私は考えておりません。ただし、今後有料キャンプ場をつくるとするならば、もう少し、例えばヒラメ養殖場を間もなく開設したいと思うんですが、そういう広い土地と環境が整ったところでやるというようなことでございます。現状の中で有料キャンプ場は考えておらないということだけを申し上げておきます。

○議長（山崎信義） 7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） 了解しました。勝見の所に有料キャンプ場がありますけども、ここでキャンプする人はできるだけあそこへ協力してくださいということで、トータル的には町に金が落ちるといような体制をとっていければいいかなというふうに思っています。

次に、天領の案内看板、これ天領の建屋の前と第3駐車場の所に案内板がありますが、第3駐車場の案内板を見ると、第4駐車場というのが第3駐車場の裏になっています。これも第3駐車場いっぱいのおきに来た人が第4駐車場、この裏どこですかと言うから、こんなもん草刈ってごみ置いておくところなんで、何もとめれるわけねえと、じゃあここはどこですかということで、私はあれっと思って確認して、今第4駐車場があつちに出して、漁協側に何か新しくできていますけども、今の看板にある第4駐車場、これはいつできるのか、つくるのか、つくらないのか、これについてお聞かせ願います。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） ご指摘のように第4駐車場整備してあるんですが、看板が不備であったということでございますので、早急に対応すべく、今もう発注しておりますので、間もなく、ご迷惑かけておりますが、正規な第4駐車場としての看板を掲示したいというふうには考えていますので、よろしくお願ひしたいと思います。その後の駐車場整備ということにつきましても実は先般、初日における加藤議員さんからいろいろご指摘になった問題もございましたので、うちの担当課というか、皆さんで現場行きまして、全部問題箇所を写真に撮りまして、私も目にしながら、こういう点についてご指摘があったと、これについてはすぐ対応したいというようなことで、例えば鉄柱2本除いたり、すぐ対応しております。ご指摘をいただいたということは、しっかり真摯に受けとめて、早急にまた対応するというような姿勢でおりますので、ご迷惑かけた点につきましてはおわび申し上げるわけでございますが、今対応しているということでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（山崎信義） 7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） 先回指摘したところいろいろ対応しているということですが、もし私も協力できたらしたいので、その辺はまた見せていただきたいということと、今の質問で第4駐車場というのはつくらないのか。今の第3駐車場の裏、これについてはもうそのままの草を刈った置き場にしておくのか、その辺についてはいかがでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） ご指摘の点につきましては、観光客の入り込みとか駐車場の利用状況をしっかりと実態を勘案しながら、さらなる整備を進めるべきかどうか、今後の課題としていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（山崎信義） 7番、加藤修三議員。

○7番（加藤修三） 状況を見て、ぜひそれに合った対応をとっていただきたい。ちなみに、天領のこの看板、これについてはやはり町としても違った形を出しておくというのはやっぱりよくないと思ひます。言われたら何日後にはそこにテープを張って、そんなこそくなことをするよりももっときちんとやるべきことはやると、新しくできた第4駐車場ができたなら第4駐車場は看板につけるべきだというふうに、それつくったときに本当は気がつかないといけないというふうに思ひますが、その辺のもっときめ細かな対応をとっていただきたいというふうに思ひますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山崎信義） 以上で7番、加藤修三議員の質問は終了しました。

この際、しばらく休憩します。

（午前10時30分）

○議長（山崎信義） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前10時45分）

◇ 高 桑 佳 子 議 員

○議長（山崎信義） 日程第1、一般質問を続けます。

次に、4番、高桑佳子議員。

○4番（高桑佳子） それでは、通告に従いまして一般質問させていただきます。

先ほどの加藤議員の一般質問では、高齢者の福祉サービスについての関係ですけれども、私もほぼ同じような内容のところもありますので、半分ぐらい既にご答弁いただいているかとは思いますが、重複するようなことは避けたいと思います。

では、私は先ほど町長がご答弁の中で地域全体の見守り、助け合いがこれからの高齢者福祉の中で重要になってくるというお話をされましたが、それと地域包括ケアシステムの観点から質問をさせていただきます。当町でも急速に進む少子高齢化、このたび町のホームページにアップされました出雲崎町国民健康保険データヘルス計画、これは町民の健康寿命を延ばそうという基本理念に基づく計画を策定しているものですが、これは当町の現状と課題という部分では高齢化率が37.2%で県内第3位、あるいは64歳以下の国保の被保険者数の急激な減少、65歳以上の被保険者数の急激な増加というものが上がっておりました。現在60歳代のいわゆる団塊の世代、この方々が75歳を迎え後期高齢者になる、これが2025年でございます。ここを一つのターニングポイントとして捉え、それまでに高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住みなれた地域で自分らしい暮らしを続けることができるように地域の包括的な支援サービスを提供体制である地域包括ケアシステムを各自治体で構築することとされています。この地域包括ケアシステムの構成要素としては住まい、医療、介護、予防、そして生活支援、この5つが切れ目なく一体的に提供される仕組みづくりが必要であると言われております。地域包括支援センターや社会福祉協議会、あと介護サービス機関、行政等の連携が今当町ではどのように進んでいるかお伺いいたします。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 高桑議員さんのご質問にお答えをしたいと思います。地域包括ケアの推進ということでございますが、実態は高齢化は進んでいるわけでございますが、2025年、これがピークとなるというふうに考えているんですが、既に当町におきましても2010年から高齢化率、65歳以上の人の数は減っておるといのは現実です。今ご質問の本町の地域包括システムの構築に当たってということにつきましては、ご意見のようにひとり暮らしの世帯や高齢者夫婦世帯が増加する中にありまして、無理に在宅でのみとりを推進するのではなく、要介護者とその家族の希望がかなえられながら平穏な療養生活を送られるよう、本町の医療、介護等の地域資源を連携した中で進めていくということが重要じゃないかというふうに考えております。医療ニーズと介護ニーズをあわせ持つ高

齢者を地域で支えていくためには、帰宅等においては提供されます訪問診療等の医療、いわゆる在宅医療の提供が不可欠の要素となっておるところでございます。このため、昨年11月には医師会、歯科医師会、薬剤師会、基幹病院、リハビリ関係等職員を構成いたしまして、出雲崎町在宅医療推進協議会を設置いたしました。現在この協議会では、医療、介護職員等、多種類の連携、退院支援などを具体的に進めておりますが、今後この協議会が中心となりまして、本町の在宅医療を推進をしてまいりたいというふうに考えています。

また、生活支援介護予防の基盤整備に向けた取り組みではございますが、介護保険法に基づきまして、新しい総合事業を平成29年度から、生活支援体制整備事業を平成30年度から実施するということといたしております。新しい総合事業では、要支援者に対する訪問介護、通所介護を市町村事業に移行し、より利用者のニーズに応じたサービスを提供してまいります。全ての高齢者を対象とした介護予防の充実を図ることとしております。また、生活支援体制整備事業では平成30年度までは生活支援コーディネーター、地域支え合い推進員を配備しております。地域支え合い推進員は、地域に不足するサービスの担い手の養成とか、元気な高齢者が活躍する場所の確保、あるいはサービスを必要としている人とサービスを提供する人とのマッチングなど、多様な取り組みのコーディネート役を担っていただきます。また、社会福祉法人、NPO、また老人クラブ、ボランティア団体等が連携した取り組みをする協議会も設置することといたしております。また、介護サービスにつきましても、町内のサービス提供事業者並びに中越圏域の事業所とも連携強化を図りながら、適切なサービスが提供できる体制を整えてまいります。

これらのサービスが一体となって提供されていくために、地域包括センターや介護支援専門員等を中心に相談機能を強化しながら多職種が顔の見える環境の中で必要なサービスを、あるいはまた仕組みを構築してまいり所存でございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（山崎信義） 4番、高桑佳子議員。

○4番（高桑佳子） 今ほど住まい、医療、介護、予防、生活支援、この5つについての連携については既に始めているということでお話をお伺いしましたが、その中にありました多業種間会議あるいはお一人の介護サービスが必要な方に対するケア会議というようなものは既にもう始まっているのでしょうか。今ほどちょっと聞き漏らしたら申しわけございません。多業種間会議をこれからというようなお話だったように思ったんですけれども、そのところはいかがでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） これは、また専門的分野に入りますので、私が総括的に説明するよりも担当課長によく説明させますので、お聞き取り願いたいと思います。

○議長（山崎信義） 保健福祉課長。

○保健福祉課長（河野照郎） 事務的なこととなりますので、私のほうからお答えさせていただきます。

今ほどの多職種連携会議のことかと思いますが、それにつきましては昨年11月に設置いたしました出雲崎在宅医療推進会議の中におきまして部会を設けまして、いわゆる医師、看護師等の医療職とケアマネ、あと介護サービス提供者等の介護職、その他薬剤師等の職種の多職種の方を集めた研修会、または出雲崎でサービス提供されている方の顔の見える関係づくりの会議を既に何回かは開催しておりますし、これにつきましては今後とも継続して開催していくこととしております。また、地域ケア会議についてですが、これは以前から開催をしております、現在もその会議は開催しておりますし、今後さらに専門的な形でその会議を充実していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山崎信義） 4番、高桑佳子議員。

○4番（高桑佳子） 私のほうでもこういうケア会議初め、多職種間の会議ですか、されているように思っていましたので、やはりそういう専門的な知識を持った方々が共通理解をするということは非常に大事だと思います。これからも強化していただきたいものですが、この包括ケアシステムを推進していくに当たっては、まず一番重要とされているのが介護ニーズと医療ニーズをどう連携していくかということではないかと思うんですけれども、当町においてはとりあえずは開業されている医院が2軒、それから歯科開業をされているところが1軒、それから薬局もございます。ただ、夜間や休日診療となるとなかなか見ていただくのが難しいというふうに聞いています。安心できる医療体制を考えたとき、当町では条件が整っていないように感じていますが、それを補うような何か対策は考えておられますでしょうか、伺います。2番目に移ります。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 今具体的ないろいろお話が出ていますが、私もちょっと痛切に感じるということはいわゆる医療機関が土曜、日曜、祭日等の患者等を緊急的に見ていただきたいというときに、非常にかつてのような体制とは変わってまいりました。これは、どこの地域においても地域に存在されるお医者さんはみんなそういう体制とっておられるわけですので、そこにおける補完的に日赤なり、いろんなところでは休日、そういう急患に対する対応をしておられるということで、緊急時にいろいろなことが発生したときにはそういう休診日における診療体制が公的に整えておられるわけでございますので、その辺を大いにひとつ活用していただくということになろうかというふうに思っています。かつては土曜、日曜でも、夜でも往診なり出ていただいたんですが、今ちょっとどこを聞いても同じ体制なようです。本当にちょっと困っておるんです。でも、お医者さんも人間でありますので、私は事情もやむを得んかなと思っています。そういう点につきましてはもう少し、要は高桑さんおっしゃるようにやっぱりそういう医療機関がお休みのときに事故起きたときどうするか、これをしっかりともう少し町民の皆さんにも、単に新聞あるいはそういうところで報道していますが、そうでなく真っすぐ町民の皆さんにご理解いただくように、そういうときにはこうしてく

ださいというようなお知らせをしていかなきゃならないかというふうに考えています。

○議長（山崎信義） 4番、高桑佳子議員。

○4番（高桑佳子） お医者様がいらっしゃるわけですから、その部分ではいたし方ない部分もあるんですが、しょうがないといって諦めていると、決してやっぱり体制としてはよくなると思います。町のホームページでも、軽度な急患、救急であれば長岡のさいわいプラザを案内しておりますし、重篤なものであれば救急車の搬送となるんでしょうけれども、総合病院、いかんせん遠いと私はやはり思うんです。やっぱり近くにそういう医療機関がないということが、やはりこの出雲崎町は医療体制がなかなか整うのが難しいということですので、以前宮下議員が一般質問の中でされておりますけれども、かつては尼瀬に内藤先生が開業されておりました。あそこは、今いらっしゃるわけですが、内藤医院はもちろん設備のある程度整った環境としてはいい建物ですし、そこで宮下議員の一般質問のときはやはりご意向に沿わないということで難しいと聞いておりますが、こういうことはまた状況も変わればたまには話が変わることもございますが、継続的に交渉するとか、あるいはそこに開業していただけるお医者様を公募するとか、そういうようなことはお考えになっていらっしゃいませんか、お伺いいたします。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 高桑さんのおっしゃるとおりでございます、私たちこの出雲崎におきましても最もやっぱり大事なはその医療体制。例えばお医者さんの、今お二方から、歯医者入れてお三方から頑張らせていただいているんですが、私はやっぱり今まであった医院、内藤さんがおられなくなったということで海岸地区、特に高齢者の皆さんはもう大変困惑をされているということは実情はしっかりと心得ています。最近は大病院等々の医師確保が非常に、でも難しくなっているというところでございますが、諦めず町としてもそういういろんな機関を通しながら、できたらこの町にも医療、医院等を、今内藤さんのところがあいているわけですが、何かそういう施設を活用していただいて何とか開業していただければ私はやっぱり幸いですと思うんです。だから、もうだめなんだと、お医者さんなんかいねえんだと、こんな町にはおいでにならないんだというような諦めじゃなくて、おっしゃるようにやっぱり前向きに努力するということが大事だと思うんです。機会を見ながら、またそういう一つの、できるだけそういうものは確保できる可能性も信じながら頑張りたいというふうに思っています。

○議長（山崎信義） 4番、高桑佳子議員。

○4番（高桑佳子） このことにつきましては、昨年度の中学生との意見交換会でも中学生の生徒さんからそういうご意見が上がっておりました。ぜひ継続して、何とか将来この町で開業してくださるお医者様が来られるように、とてもいい町ですから、暮らしやすい出雲崎のよさというものもありますので、もしかしたら出雲崎で暮らしたいという方がいらっしゃるかもしれませんので、ぜひ継続して交渉をお願いしたいと思います。

続きまして、3番目の認知症の高齢者が増加することに対する諸問題について質問させていただきたいと思っていたんですが、ここでは加藤議員が先ほど一般質問されておりますので、こちらから、私のほうからちょっと1点だけお願いしたいと思います。この認知症対策につきましては、先ほどいろいろな事業の中での認知症予防教室であるとか、そういうことの開催等についてもご説明があったんですが、さまざまな自治体を見ておきますと、例えば海の向こうの佐渡市でありますとか、そういうところでも新しい取り組みをしているところがあります。もちろん認知症予防教室であるとかほのぼのカフェのような形で認知症カフェを設立しているところもちろんあるんですけども、認知症として構えずにほかの事業と一緒にそれを行っていく。例えばこれから始めようとしている放課後子ども教室のようなものをイメージしているんですけども、放課後子ども教室で高齢者の方の脳トレーニングと子供たちの宿題を一緒にやるとか、そういう介護福祉の分野だけに限らず、いろんな事業とあわせて認知症のそういう事業を考えていく、そういう意識を持っていると単独ではないにしろ実施費用も少なく済むと思うんです。そういうような方向も一つ考えられると思うんですが、そういうことに関しては町長いかがお考えでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 先ほど加藤議員からのご質問もございましたし、今認知症ということは、かつてはがんと宣告されますと死の宣告ということで深刻に受けとめたんですが、今はがんと宣告されても医療が進歩していますので、大方治る可能性が十分あると。認知症は、認知症と診断されると本当に絶望のふちに追いやられるというのが今の現状だと思うんです。さて、その認知症の対応については講演会なり、あるいはまた医療機関との連携をとってやっておるんですが、やっぱりそういう発症するまで、今高桑さんおっしゃるそれを抑えるためのいわゆる仕事が一番私は大事だと思うんです。だから、認知症というのはとかく一人で閉じこもったり、あるいは話し相手がなかったり、あるいはいろんな悩みを抱え込んでしまうと、いわゆるそういう障害が起きるという可能性がございます。それを未然に防ぐためには今おっしゃった子ども教室等で子供との触れ合いとか、大事なことだと思うんです。

だから、私はやっぱりきょうおいでいただいている皆さんからも、婦人会なりそういう団体の皆さんさんからもできるだけまた子供さんなり、そういう一つのお年寄りの皆さんとの交流的な機会を持っていただいているんですが、私やっぱり認知症に対する対応をいかせんとするかというよりも事前の認知症をいかに防ぐかということに対するやっぱりもう少し意を注がなきゃならないんじゃないかと思っています。今ご提案のそういうようなことについて、私やっぱり大切なことじゃないかなと思っていますので、きょうおいでの皆さんもごきますし、いろいろご協力いただいて、認知症にならないような事前の対応が一番私は肝要ではないかと思っていますので、また十分検討してまいりたいと思っています。

○議長（山崎信義） 4番、高桑佳子議員。

○4番（高桑佳子） ほかの、町長のおっしゃるとおり、予防もちろんとても大事です。町としてもそう大きい町ではないわけですから、ほかの既存事業やこれから予定されている事業に認知症対策の観点を付加することでもっと広く認知症に対する理解が深まっていくのではないかと考えます。予算、労力をかけない方法を考えていただきたいと思います。

それでは、4番目の質問に移らせていただきます。高齢者福祉について考えるとき、あるいは包括ケアシステムについて考えるとき、団塊の世代という言葉がしょっちゅう出てまいります。高齢者が増える話ばかりが先行しているかもしれませんが、私は実はこの団塊の世代の方々がこのからの地域社会のあり方を担っていつてくれる、変えていつてくれるかもしれない、そういう期待を持っています。団塊の世代の方々といいますと、今60代を超えられた方になりますけれども、大変パワフルで元気な方が多くいらっしゃいますし、企業を定年されて趣味を楽しんだり、農業に従事したりとそれぞれライフスタイルを持ってどんどん地域に入って活躍されています。当町には有償ボランティア団体さぷらいというNPO法人がございます。ここでは、高齢者の支援を行うと同時に提供会員が地域社会でできること、つまり社会参加を積極的に行って充実感、達成感、そして仲間意識を持って活動していらっしゃいます。公平で活力のあるすばらしい団体だと思っています。ここでも実に多くの団塊の世代の方が提供会員として活躍をされています。せんだって行きました県の研修では、これからの地方創生には行政、それから住民、そして企業や地域団体、この三角形のトライアングルをうまく機能させていくことに加えて、真ん中にNPOや若者の団体、あるいは地域のコミュニティなど、やわらかい弾力のある組織と連携していくことが重要だというお話がありました。地域包括ケアシステムも同じだと思うんです。やはりシステムを構築していくことも大事ですが、最も大切なのは住民の自発的な活動を喚起したり支援したりしていく、住民の皆さんが自分たちの地域を自分たちで高齢者福祉を実践していくんだという、そういう思いが大事だと、先ほど町長もおっしゃいましたけれども、それは全くそのとおりでと思うんです。ですので、私たちはこれから包括ケアシステムの構築というのと同時に地域、コミュニティづくり、町づくりということにも邁進していかなければいけないのではないかと考えます。

当町では、やっぱりでもこういった住民の自発的な活動を喚起したり支援したりするところが若干弱いのではないかと思います。制度として持っている、あるいはシステムとしてある、活用できるものがある、けれどもどう活用したらいいかわからない、どこに聞いていいかわからない、こういうことも実態としてはあると思うんです。何かを始めるときに、こういう方法がありますよ、こういうところ聞いてみるとわかりやすいですよ、こういうことは行政が得意としている分野ではないかと思います。こういった住民の自発的な活動を支援して、新たな住民サービスをふやしていくということについては、町長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 基本的には私は常に申し上げておるんですが、今長寿時代を迎え、世界に冠た

る寿命が延びていると、日本は。私は、そういう中において単に寿命ではなくて、その中でやっぱり自立をしながらいかに健康寿命を延ばすかというのを最も重視しなきゃならんと私は申し上げている。

さて、今おっしゃったようなこれから地域ぐるみでいろんなことを進める。さて、いろんな協議会なり、あるいはまたねっとわーくさぷらいの皆さんもそうです。あるいは、陽だまり等々を運営している皆さんもそうです。ほとんど定年を過ぎた皆さんが中核になって事を進めておられる。これは、私は一つのこれからの長寿時代を迎えた中における出雲崎町のやっぱりありようではないかと、こういうものが一つの基本的なそういう形、それを町民の皆さんからご理解いただいて、単に年をとった、定年になった、もう終わりだ、そうじゃないですよ。そういうものを、今こそそういう人生経験豊富ないろんな皆さんからそれぞれの実態に合った、出雲崎町の実態に合った皆さん方に自ら行動し、率先垂範でやっていただく、そのことが私はやっぱり高齢化時代を迎えた出雲崎町のある程度の道しるべになると思うんです。そういうことを現に私たちもやっているわけですから、さらにこれを徹底して皆さんからご理解をいただいて、大きくもう俺は定年なんだと、俺はもう楽隠居だという気持ちは持ってもらいとだめだ、困ります。やっぱり定年になってもなおかつ10年、20年とはつらつと生きてもらう、そしてまた社会奉仕していただく、これが大事なんです。そういう意味合いで私たちもいろんな機関、これからのいろんな協議会をつくっているいろいろありますが、その中にやっぱり元気印のお年寄りの皆さんからも参加してもらって、人生経験を生かして、そして若い者とも協調し合えるような一つの形をつくっていくということは大事だと思うんです。単に高齢化だから困るんだと、お年寄りが増えて困るんだというんじゃなくて、逆にそれを逆手にとって、いかにこの町の活性化につなげるかということが大事です。今後十分検討してまいりたいと思います。

○議長（山崎信義） 4番、高桑佳子議員。

○4番（高桑佳子） 具体的にもし町民の方が自発的にこういうことをしたい。例えば今社会福祉協議会のほうでもサロン事業をやっていますが、そういうのがない地域でこういうことをやっていきたい。あるいは、もっと他地域でやっていることを考えますと、住民の食堂のようなものを月に1回開催したいとか、いろんなことを考えることができます。そういうような住民からの自発的なコミュニティをつくっていききたい、これから何か社会の中で活動していききたいというような発案があったときに、こういうやり方がある、あるいはこういう方法がとれるというようなことを行政のほうで吸い上げて振り分けるというような、そういうような機関と、あるいはキーパーソンになるのかもしれませんが、そういうものを設置していただくこと、そういう方がいるということを知っていただくことでそういう活動がもっとよりやりやすいものになっていくと思うんです。行政の中でそういう場所をつくっておくということは、私これから必要なんじゃないかと思うんです。何かから何まで住民の方が考えて、気持ちもやりたい、体力も元気もあるけれども、どうやっていいかわ

からないというのではなかなか一歩が踏み出せないと思うんです。その一歩を踏み出せる、踏み出しやすくするための機関を何か考えていただく、策を考えていただく、そういうことについてはいかがでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 先ほどから申し上げておりますように、それが私たち出雲崎町の最も期待する。呼びかけもさることながら、やっぱり地域コミュニティ、地域サロン等をやっているんですが、そういう地域は指導者がいて、積極的に地域の人に働きかけながら、その場の提供する場所については町でひとつ考えてくれないか。それに対して、町はもう全面的に協力すると。そうすると、その指導者によって地域の皆さんがお茶を飲んだり、いろいろな会をして非常に楽しく過ごしておられるという実態があるんです。私は、これは今さっき11カ所あるんですが、これをもっとふやしたいです。もっと海岸のほうが多いでしょうか。地区、こっちのほうも私やっぱりふやしていきたいと思うんです。そういう意味で町としてもそういう一つの自発的な行為もさることながら、町で呼びかけもするという事は大事だと思うんです。セクションを置くというよりも、私はやっぱり今出雲崎の体制は、単なるセクションを置いて、1つの部署を置いてという、もう総合的に連携をとりながら全ての者がそういう問題意識を持って共通問題で取り組むということに成功がつながるんです。やっぱりそういう意味合いで、今高桑さんの提案に対しては私は大賛成です。

最近はしかし、またきょうおいでの皆さんも本当に日赤奉仕活動あるいは老人クラブ、あるいはその中の活動における良寛記念館あるいは学校の草取り等々参加してもらっている方あるんです。だんだんそういう方が少なくなってきたという現実も私たちはかいま見ている。そういう意味で改めて高齢者の皆さん、いろいろな皆さんから、時間的な余裕もあられると思いますので、経験を生かした、そういう一つの地域づくりに協力いただくような呼びかけは積極的に進めてまいらなければならぬというふうに考えています。その方策については、また皆さんとよく相談しながら、また私ども地域に呼びかけをして、そういう我々でも十分サポートしながら形ができれば最高と思うんです。そういう意味でまたいろいろご提案なりいただきましたらまたお聞かせいただいて、行政も積極的にご支援したい。また、単なる受動ではなくて能動的に働きかけてやるということも大事だと思いますので、両面作戦でやっていきたいと思っております。

○議長（山崎信義） 4番、高桑佳子議員。

○4番（高桑佳子） 積極的に進めていっていただく、あるいはサロンの場所をふやすということで、それはもちろん積極的に進めていっていただきたいことなんですけれども、今ほどセクションは置かない、そういう場所は持たないというようなことをおっしゃったんですが、やはり住民にわかりにくいということはサービスがよくないということだと私は思うんです。ですから、やはりそういう住民の方が自発的な気持ちを持ったときに気軽に相談できる場所、あるいはそういうことを振り分けてくれる場所、それは役場の保健福祉課に聞きなさいとか、産業観光課に聞きなさいとか、あ

るいは中越圏域にはこういう同じようなことをやっている場所があるから参考になるのではないかと、そういうようなことを相談に乗ってくれるインフォメーション的なポイントが必要なのではないかと申し上げているんですが、これからやはりそういった気持ちを持ってくださる方がもっとももっと増えていくことを望んでいるんですが、そのときにやはり一番最初にそこにぶち当たると思っています。ですので、やはり課を置くとか係を置くとか、そこまでは言っていないんですけども、インフォメーション的なポイントを役場にも、役場でなくてももちろん構いません。それは、社協さんであってもほかのところでも構わないと思うんですが、そういうところを置いてはどうかということについてはやはり難しいものではないでしょうか、もう一度お聞きします。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 私たちもさっき申し上げますように、サロン活動は社会福祉協議会、きめ細やかに非常に大きな多彩な事業を展開されておられますので、そういう皆さんも積極的にやっぱり町民の間に出られていろいろお話をし、一つのいろんな行事を持っておられるわけですので、これは私はやっぱり相談を受けるというよりも逆にこちらのほうから積極的に働きかけをしながら、組織づくりなり、いわゆる場所づくりをしていくというのが私は大事だと思うんです。自発的に相談いただくようになる、これはしめたもんです。でも、なかなか現実はそうではないと私は思う。今までのサロンの中でも、ぜひこういうことをやりたいということで町に相談された。それは、福祉協議会なり、あるいは保健福祉課に相談をする。気軽にどこでもいいんです。こういう問題がある、こういうことについてお願いしたい。これは、私はさっき申し上げたうちの課は横断的に全部全ての、もう何でも屋です、うちの町は。こんな小さな町のこれだけの窓口、これだけの住民の中における、住民の顔みんな知っているんです、一人一人知っています。だから、大きな市や地域じゃない、自治体じゃないんですから、もう顔の見えるところの手近な町民と我々の接触、交流の場ですから、あえて私はセクションなんか置かないでいいです。逆にどこでもいいです。相談してください。いろいろ問題をぶつけて、どこでも対応します。もしそのセクションが違えば、町民課、あるいは保健福祉課なり社会福祉協議会に相談してくださいというような、そういう横断的な中にそういうことをしっかりと受けとめるということを職員と共有しながらやっていきたいと思っておりますので、今ここでセクションをつくってどうするという、考えはございません。

○議長（山崎信義） 4番、高桑佳子議員。

○4番（高桑佳子） 職員お一人お一人が全部そういう体制をとっていただけるといふのであれば、それはそれで非常にありがたいことではあるんですけども、いずれはやはりそういうセクションが必要になってくるのではないかなというふうに考えています。これは、また引き続きお願いしてまいりたいことですので、いつかそういうふうにしたいたいというふうに考えています。地域包括ケアでよく言われるのは、介護と医療の連携になってくるんですけども、本当に大切なのはやはり地域づくり、町づくりではないかと考えています。地域にあるさまざまな社会資源を使って、より住

みよい、暮らしやすい地域をみんなでつくっていくということが一番大事なのではないでしょうか。

ただ、今のお話の中でどうしても行政のほう、官からおりてくるもの、それから民から上がっていくものというふうにその2つを考えたときに、どうしても今の地方自治体のいろんな事例を見ますと、民から上がっていくものに関しては続いている、広がっていく。ただ、やはりどうしても官からおりてきたものの中には潰れていくものがいっぱいあるというのが現実です。そこは、やっぱりパワーが違うとか、思い入れが違うとか、そういう部分では何か制度をつくって上からおろしていくのではなく、住民の力を目覚めさせるものが必要なのではないかなと考えています。そういうやっぱりシステムづくりをこれからしていかなければいけないと思いますので、引き続き私どもそういうふうに皆さんにも訴えていきたいですし、行政の方々にもお話ししてまいりたいと思います。

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（山崎信義） 以上で4番、高桑佳子議員の質問を終了します。

◇ 中野勝正議員

○議長（山崎信義） 次に、2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） それでは、質問させていただきます。

社会福祉の充実に向けての現状と問題点の対策について質問させていただきます。初めにお話しいたしますが、私はよその市町村に比較してみますと当出雲崎がこれに関してはおこなっているとは認識しておりません。先に述べさせていただきます。しかしながら、きょうよりもあす、さらによくなっていただくために、そういう気持ちの中で今回行政として町民の皆様からさらなる力をかりてようになっていただきたいと、そういう気持ちで質問に立ちました。今年3月に出雲崎町総合計画、審議会委員及び当町の総務課事務局の皆さんのご協力で第5次総合計画が示されました。それは、平成28年から32年の5カ年計画がここに書いてあるわけでございます。その中の健康で安心して暮らせる福祉の町づくりを推し進める中で、私は1つ、経済的困窮者や社会的ハンディキャップを持つ人たちに対して、地域が連帯していく必要があると、そのように委員の皆様から示されております。私も同じ気持ちであります。その中で現状を見た場合、行政では社会的困窮者には生活保護費等とかいろいろありますし、また所得の低い方においては優遇措置が図られ、また社会的ハンディキャップを持っている方は障害福祉費等、また日常生活自立支援事業費補助金などがやっつけられるわけです。また、そのほかに決算を見ますとたくさんあるわけです。その中で、町民の皆さんもよくやっているのではないかなと感じていると思います。

そこで、私が質問させていただきたいのは、現状において行政では地域が連帯していると感じていただけるかどうか、その辺ののをお聞きします。答弁お願いいたします。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 中野議員さんの出雲崎町の第5次総合計画、後期計画の中における福祉関係をご質問されているわけですが、先ほど来からご質問をこの問題については具体的に個々にまたご質問いただきながらお答えをしておるとおりでございます、町では本当に見守りあるいは支え合いの地域づくりというものをしっかりと標榜しながら、各種の施策について連携をとりながら進めてまいりたいというふうに思っているわけでございます。

ご承知のように、今中野さんが示された後期計画におきましても第1章は健康で安心して暮らせる福祉の町づくりと標榜しております。まず、この高齢化時代を迎えた中における地域全体が連携をとりながらお年寄りの皆さんからも、いわゆる障害を持つ方々からも、生活に困窮される方々も本当にその中において、お互いの支え合いの中で自分のこの町に生まれ育ち、そして余生を、この住みかを安楽に暮らせるような基本的な問題を個々の施策の中でしっかりと生かしていきたいというふうに考えております。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） そこで、ですから地域が連帯しているかどうか、それを町長の見た中ではどのように見られているかを聞きたいわけです。どうでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 具体的に今ご質問いただいているんですが、私は総括的にこの出雲崎、わずか4,000有余の人口でございます。その中における本当に地域的なつながり、あるいはいろいろな交流関係はしっかりと私は基本はできているなと思っております。

ただし、その中においてやっぱり皆さんからご質問いただいているように、いろんな一つの、中野議員さんからも個々の具体的なものについてのいろいろご質問をいただいているわけですが、そういうものを総合的に、やっぱり一つ一つの事業に集中的に目的を達成しながら、そのものを波及効果を及ぼしながら総合的に成果を上げるということで進めてまいりたい。私は、やっぱり今出雲崎はよその地域と違って非常に町民間の連帯感というのはしっかりと基本構築はできているというふうに考えています。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） 今町長のほうで見たときにおいて、当町においては地域が連帯しているという認識を持っていられると。そこで、私思うんですけども、今この若い世代だとか私みたいな老人の世代を見ますと、若い人は気持ちの中で走っているし、お年寄りの人はお年寄りの人で小ぢんまりとやっていて、なかなか地域、私も大門ですけども、大門の中においてもそういう連帯意識が昔はよかったと思うように自分では思っているんですけど、最近を振り返りますとその連帯意識が薄れてきているかなと私は思っているんですけども、町長はそういうふうに理解はないでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 確かに私が申し上げたように、今の若い人たちはある年代に対して自立します

と、俺一人でこの生活もう生きてきたんだというような、ちょっと自意識過剰に陥りやすいというふうに考えています。私は、うちのことを申し上げていかがかと思うんですが、私は今3世代です、うちは。そして、うちのせがれとの対話というのは余りないです。しかし、これは生活環境も違ってきますし、いろんな考え方も違ってきますが、底流はやっぱり私はもう率直に申し上げて我が家庭はそういう対話なり、そういうものはないです。でも、底流にはやっぱり親子関係なり血縁関係、一つの家族という連帯意識あります。これははっきりと私は感じております。何も問題ないです。ただし、今までのような対話だとかそういうものは余りないことは事実。でも、私は私の家族、よそもそうです、見ておられますとそれは中にはちょっとトラブルもあります。これだけの世帯ですからあるんですが、総体的に私はそれぞれの例えばいろいろな家庭見て、非常に円満に立派にいつているなというふうに感じています。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） 町長の家庭のお話を出していただいてありがとうございます。私もその中で少しでも地域が連帯、連結をした中で、少しでもきょうよりもあしたがよくになっている、そういうふうなまた行政の指導をしていただきたいという気持ちがあるわけでさせていただきました。

2番目に入らせていただきます。2番目のところに書いてあるように施策の方針で述べていますが、書いてある中では何々の活性を図る、何々の育成に努める、何々を始めます、何々をしますということが書いてあるわけですが、これも現状では保健福祉課の皆さんが中心になり、社会福祉協議会の皆様とか民生委員の皆様から地域にかかわってくれているわけです。そういう中で、さらに具体的に今言った努力する、始める、しますということですが、これを具体的にした場合、じゃ、これ文章的にはこういうふうには当たり前だと思うんです。でも、町民にわかる、具体的に示すにはもうちょっとこうするんだよというようなのがありましたら、聞かせていただきたいんですが。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 中野議員さんのご質問十分理解するんですが、いわゆる今町が後期計画を設定しているわけですが、この基本計画の中には申し上げるようにそれぞれの個々のいろいろな事業についての基本的な考え方を述べておるわけです。その基本的な考え方に基づいて、さらにそれを成果を上げる、その目的を達成するために、個々に具体的に先ほど来からいろいろ質問あるようなその事業を進めているわけです。これをちょっと説明してまいりますと、1時間、2時間かかっても終わらないわけです。だから、基本的なそういう計画に基づいたきめ細やかな政策を進めていくという今段階です。それに対するいかなるものでしょうか、職員もそれぞれ町民に寄り添った気持ち、私はそれを常に申し上げています。常に町民の立場に立ってください。町民の立場に立って全てのことをひとつ考えてくれないかと、また行動してくれないかとお願いしています。大体私と職員は、そんな方向で進んでいるというふうに考えていますので、またこれは人間ですから、100点満点はないです。だから、そういう点で何かいろいろ問題があったら率直にお聞かせいただければ、直ちに

私たちもそのことにしっかりと軌道修正をするという形で進んでまいりたいと思いますので、個々の問題については先ほど来から質問してございますし、また中野議員で特にこの問題についてどうかと言われればお答えしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） 私の中では、やっぱりいろいろ目標ですので、5年間の目標の中で書いてあるから、これ当然だと思います。個々にどのように、持っていったらいいかなということだと思いますが、私は一つの例あるわけですが、今保健福祉課のほうでA4のパフレットみたいなのが発行されて、その中で挨拶運動とか気配り運動、助け合い運動、こういうふうなのが書いてあったわけです。これは、いいことだなと思うんですけども、ただ各戸全部に配布されたわけだと思います、うちも来ていますから。したんですけども、それだけでは物足りないのではないかなというふうに思いまして、それを今後積極的に何かやっていただきたいというのが個人的に思いますし、またやるにおいても当然予算が絡むことですので、予算の絡みの中でここだけを極端にやっちゃうと、この後予算の配分のこっちがまたおろそかになるとこれまたおかしい面がありますので、この辺の考え方としては要は先ほどの経済的ハンディキャップ、ここからきているわけですので、そういう人たちの考え方をどのように持っていかにおいての私の一つの例として挙げたわけですが、その辺の考え方としては今後、町長、どのように思われますか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 私は、社会福祉協議会の会長も務めていますし、いろんな会議の中で申し上げるんですが、健常者、例えば私たちもこうして町民各位の大変なお世話になっている、そういう皆さん今立場です。しかし、その反面、本当に努力してもなかなかそれなりの環境は得られないという方あるわけです。私は、そういう生活、いわゆる困窮される方々、これ努力してもなかなかもう結果得られないことたくさんあるんです。私は、そういう人たちに徹底的にもうよく尽くしてくれと私常に申し上げる。本当にそういう困っている方、ただ怠けているんじゃないです。努力しながらもかつ障害を持った、そういう人たちはもう徹底してひとつ意を尽くしながら満足感を与えていただけるように努力してくれということ申し上げています。そういうことで頑張ってもらえる方々は頑張って、やっぱりそれなりの生活を維持し、そして社会奉仕なり、あるいは地域のいろんな活動を展開してまいる。もうやりたくてもできないんだという方に対しては、それなりの配慮を。だから、施策は先ほど来からいろんな問題出ているんですが、全てのを100点満点はお金をつけれない。その中における出雲崎町の現状の中でいわゆる一つの緩急、いろんな一つの重点事項、まず進めなければならないのは何であるのかということのいわゆる選択をしっかりとしながら、そのものが相乗的にいろんな面の効果をあらわすということは私は大事だと。その選択をどうするかと、これからやっぱり私たちのこの町の高齢化なり、いろいろ産業振興なり、農業問題もそうです。そういう問題の中で緩急をつけながら、優先順位をつけながら予算措置をし、積極的に進めてまいり

たい。この後の子育て支援センター、今回また協議会で徹底して、これはもう私たちの喫緊の課題、命題です。お金はかかるでしょうが、徹底してやりたい。そして、総合的にまたいろんな施設をつくってお年寄りの皆さん、子育ての皆さん、老若男女がそこに集って健康維持をしながら、またコミュニケーションを図ってもらうというものをやりたいと、提案したいと思うんです。そういうことについてもまたご理解いただきたいと思っています。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） 1、2番においては、大ざっぱに聞かせていただきましたので、今度は細かく聞かせていただきたいと思います。

3番目に入るわけですが、私は地域福祉において聞かせていただくわけですが、この地域福祉でございしますが、社会福祉協議会の資料によりますと登録ボランティア団体の状況は8つあるわけです、8グループ。ひまわりグループ、出雲崎日赤奉仕団、出雲崎町婦人会さん、西越仏教会さん、出雲崎町老人クラブ連合会様、出雲崎老保21ですか、それから出雲崎町社協ボランティアグループ、それから出雲崎町手話サークルというふうにこの資料によりますと8団体あるわけですが、この8団体はそれぞれ自分のところで計画されて、実行に移して地域に貢献してくれているということは私も承知しておるわけですが、その施策の方針の中で3つ挙げてありますが、その中の1つ、地域福祉活動の中心となる社会福祉協議会の充実というふうなうたってありますし、また強化によりボランティア団体とその指導者の育成に努めると方針が示すというふうに書いてあります。そうであるのであれば、そのやり方がやっぱり当然示すということですから、考えられるわけですので、その考え方は町民にわかりやすく説明したときにどのようにしようと考えられますか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 地域福祉活動については、いろんな個々の機関、あるいはまた団体等もありますが、単独でなかなかその一つの事業に取り組んでも連携があるということでございますので、またやっぱりそれぞれの団体はその団体なりの目的と性格を持ってやっているんですが、地域全体から考えますと、やっぱり私はこれからは個々のそれぞれの団体の取り組みは大きく評価をし、感謝しているんですが、そういう団体各位の横の連携をしっかりととりながら、やっぱりそれぞれの各取り組みが総合的に成果があらわれるような形に持っていかねばならんんじゃないかなというふうに考えています。そういう意味で今後いろんな団体がございますが、そういう機関の皆さんの横の連携をしっかりととりながら、そのものは個々の取り組みは波及的に連携をしながら、そして総合的な成果が上がるように努めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） 今町長が述べられたのも私も同じ考え方なんです。それで、社会福祉協議会のほうにもお話を聞いたんです。そうしましたら、社協さんのお話だと過去にその団体のリーダーの方から1回だけ集まっていたいただいて、何か意見交換されたんだと、したんだけど、それ1回で終

わっていますよという話をお聞きしたもんだから、今町長と同じ意見で、早急にこれは横でやった中で、町を挙げての地域福祉ですので、やっているうちだけのあれだよということじゃなくて、お互いに助け合う、そういうふうなのをやっていたきたいというようなのがありましたので、早急にそれ実施していただきたいというふうに思っております。

それから、そのほかに何か町ぐるみの取り組みみたいな、考え方みたいなのは今のところないでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 新しい何か取り組みですよ。

○2番（中野勝正） はい。

○議長（山崎信義） ちょっと待って。地域福祉に関して。

○2番（中野勝正） 地域福祉において、今言う町としてまた新しい取り組みみたいなのは実際にあるかどうか。また、今後検討するとか、また何かを集まってもらってやるとか、そういう考えがあるかどうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 先ほど来から申し上げているように、また中野議員さんおっしゃっているように、基本計画と福祉関係については健康で安心して暮らせる町づくりということを目指しながらしっかりとそれぞれの機関でやっているんですが、新しい取り組み、私は時代は大きく変化していますから、やっぱりその変化をつかみ取りながら、その変化にまた乗じながら、昔これはもうこれ以上のものはないんだという一つのこだわりは持たない。やっぱり時代の変化なり、またいろんな人口も高齢化の問題もそうですし、またいろいろ障害者の皆さんの動きなり、そういう皆さんがどういう状況の中にあるのかということを変化をしっかりとつかみ取るのは基本は基本です。でも、今後の変化にもう臨機応変、柔軟に対応しながらその目的は十分達せられるように今後対応してまいりたい。今ここでこういうものはこうだと、先ほど来からいろいろご質問ございますので、答えているんですが、それはもう十分やりながら、また新しい施策的な問題。今さっきも子育て支援センターの問題もこの協議会の最後のときにお話、提案するんですが、そういう時代が変わって、これを新しく取り組みたいということについては、また皆さんに十分ひとつまたあらかじめご相談申し上げながら、ご意見をお聞きしながら進めてまいりたいと思いますので、今のところは今までも進めております事業をまず地に足をつけてしっかりと成果が上がるように努力しながら、その上において変化があるときはまた臨機応変に対応してまいりたいというふうには考えています。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） 頑張っていたきたいなというふうに思っておりますが、私地域福祉においてこのたび決算が、今資料ないんですけど、決算書があった中で地域福祉基金というのがあったんです。地域福祉基金というお金、当町はどれだけ持っているかということがありましたので、その金

額が1億6,300万強あったんです。あっ、これだけ地域福祉基金があるから、もっと町を充実して地域福祉に使われるかなというふうな気持ちの中で保健福祉課長さんにお話、こういう基金は有効活用できるんですかというふうなのを聞きましたら、課長さんの答弁ですとこれは昭和50年代でしょうか、に国の政策でこれをつくったんだと、それでこの元本というんでしょうか、1億六千何がしの元本はもうこれはおろされないんだと、ただし利子はおろして地域福祉に使ってもいいですよという国の政策の中で来ていますよと、こういうお話をお聞きしたもので、あれから何十年たっているもので、何か町長の策の中で地域福祉をもっと有効に使う道は考えられるかどうか。これは国の政策だからだめだよとなればまた違う方法考えられますけども、私が話の中で言った中で、ここを国のほうにも話しかけて、もうあれから何十年たっているから、有効に活用できるのを国のほうに言ってみるよとか、何かそういう考えみたいなのが私がしゃべった中で、町長、どういう、ありますか、お伺いします。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 基金も多種多様あるんですが、財政調整基金、これは全く私たちが町の実態に即していつでも活用できるのはいわゆる財政調整基金です。福祉基金というのは、これ目的基金ですから、簡単に目的を変えたものには活用はできないというところなんです。ただし、その目的は地域基金を活用してのいわゆるその活用の目的に沿ったものであればいいわけなんです。ただし、今1億6,000万、率直に申し上げます。今マイナス金利、マイナスゼロ時代です。金利時代ですので、せっかくある基金は有効に安全かつ果実が得られるようにちょっとその基金も条例に沿った中において1億程度です。さらにその基金を充実するという方向で今進めております。そういう中において、いわゆる基金は基金としてしっかりとキープしながら、その目的のために基金を取り崩すということであればやぶさかでないわけですので、今のところ当面はこの目的基金は目的基金としてしっかりと確保しながら、次の大きな時代の変化あるいはいろんな一つの要請があったときに基金を取り崩すこともあり得るということをございますので、今のところは基金を取り崩してどうこうするという今段階ではございません。しっかりと持てる基金を有効かつ安全に活用して、ちょっと果実を得たいなと思ってやっています、はっきり申し上げて。確実に今の0.01というような金利では、とてもじゃないですが対応できない。しっかりと1億運用させろというので進めています。そういう点で基金をしっかりとキープしながら今後に備えていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） 当然地域福祉基金ですので、目的があってやられたわけですけども、そこなんです。せっかく地域福祉をするにはやっぱり予算がかかるんです。その中で今言う社協さんの資料の中でいうと8団体ある中で、ほんの頑張ってくれ、頑張ってくれと言っているもやっぱり予算はこれしかないよというよりももう予算のことは心配しなよと、町が出すからもういっぱいやって

くれよというふうな計画を出せば、幾らでも地域福祉だからやるよというふうな気構えみたいなの
というのは、町長、どう思いますか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） お金は、うちの町も今回の決算でご理解いただけるように全く安定した状況の中
にございます。ただし、何もかにもあるんだから、これをばらまいて、もう好きなように勝手に
使うというのはちょっといかがなものかなと思います。やはり財調もそうです。今約21億程度キ
ープしているんですが、全くゆとりはあるんです。でも、今熊本あるいは東北等において大きな災害
が発生している。そういうときにどう対応するかというふうになってまいりますと、備えあって憂
いなし、やっぱりそういう安定した一つの基盤をつくっておかなきゃだめだ。何でこんなにあるん
だから、それを使って、好きなように使ってもうやるというわけにはまいらない。やっぱりその時
代の、いわゆる先ほど申し上げるようなそういう状況が来れば、これは本当に全体の地域、あるい
はまたいろんな意味の福祉関係に大きな寄与するとなれば、これは基金運用も必要になってくる
と思います。今こういうことあるから、どんどんやれということはちょっと私はいかがなものかな。
それよりも今の状況はうちの財政も安定していますし、いろんな意味での皆さんのご要望に
応えています。そういう状況の中にその目的基金をさらに充実した、安定した、積み重ねをして、もう
一旦緩急に備えるというのは私は大事じゃないかと思っていますので、今ここで基金を崩して、何
かもするとは私はちょっと考えていません。私の基本的な考え方は、もう安定した財政運営の中
でいざ事が起こったときに十分対応できるという、その基盤だけはしっかりとつくっておくべきだ
というふうに考えています。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） 当然そうだと思います。財政においては、当町盤石の中でやっ
ていられるというのは私も理解しているわけですし、その中で地域福祉においてはやはり
使い道が決まっているという中で、今の国の制度の中ではこうだから使われませ
んよということになっているわけです。ですけども、あれから何十年たっているから、
使い道の方向性において町としてもっと何か、ただ利子だけを使ってもいい、あ
とは使っちゃうまくないよということをしにさせていただいて、地域福祉に何々
で使うんであるんであればオーケーですよと、ただ利子だけを運用ではないという
ような考え方というのが聞きたいんですけども。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 中野議員さんのお気持ちはわかるんですが、私もかつては
国保運営財政基金、これが1億五、六千万あったことがあった。あのときの共産
党議員さんもおられて、これだけの金があるんだから、どんどん放出して国保
税を安くしなさい、何回も言った、違うと。今はこういう状況。国保の運用基金
も1億五、六千万あった。それは、崩してやれば国保税はずっと安くなる。でも、
必ずこの構造自体が変わってくる、そのときにどうするか。そうしたら、もうど
んどん、ど

んどんと基金を崩して充当しているんな仕事をした。さて、今度は金がなくなった。さあ、今度は国保税を倍取りますよと言ったらどういう反響出ますか。そうじゃないでしょう。今そういう状況なの。あのときに運用基金をもうしっかりと活用して、安定的な運用をしたことによって、今ももうある程度国保税を抑えているんです。そういう観点からしますと、ばらまきとかというのはいかがか。しかし、必要に応じてそういう状況があればこれは使う。でも、何もかにも今基金があるから全部使って、町民の要望するいろんなこと、先ほど来のタクシー券もそうです。そういうのに全部使う、これは、ちょっと私は考えていません。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） そういうことであれば、お話はわかりましたということになります。

2番目に入らせていただきますが、児童福祉について質問いたします。次代を担う児童の保育環境のより一層の向上を目指して、地域ぐるみで健全育成体制の充実に努める施策の方針、6つ示されておりますが、その中の一つ、国や県でも最重点で今取り組んでいますし、当町も取り組んでいられるし、先ほども町長も言われたように当町も子育て支援拠点施設を整備すると述べているし、また全協においても具体的にお話ししますよということですが、今ここで大ざっぱというか、話はないほうがいいですか。

○議長（山崎信義） 中野議員に申し上げます。質問の内容をはっきりしてください。

○2番（中野勝正） わかりました。じゃ、聞かせてください。国や県でも最重点で取り組んでいる子育て支援をやっています。その中で、当町も子育て支援施設を整備すると述べていますが、具体的に町長はどのように考えているか聞かせてください。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） ちょっと議員さんの質問の前に私が考え方を申し上げたんですが、全員協議会の席上におきまして骨格が固まっております。施設の内容、どういうのをつくって、施設の内容は大体こうで、大体支援センターを中心に多面的なまたいろんな一つの施設を整備しながら一体的に活用したい。ただし、中心は子育て支援センター。これにつきましては、言葉で申し上げるよりも全員協議会でしっかりと青写真を示しながらこういう方向で進めたい。お金もかかりますが、私はどうしてもやるべきだと思います。その辺を全員協議会でしっかりとご説明して、担当課長がまたよく説明しますので、また皆さんのご意見をお受けしながら、平成30年度には開設できるようにもう今から準備を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） じゃ、これ全協に期待しております。

じゃ、3番目に入りますが、ひとり親福祉について質問させていただきます。ひとり親家庭の児童を取り巻く環境をより一層向上させ、地域ぐるみで健全育成に努めるための施策の方針が示されております。その中で、説明の中で家庭の充実に図るため、職業訓練等の就業支援に関する相談機

能の強化を図るとうたっているわけですが、じゃどのように具体的に考えてやれるかお聞きします。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 先ほど来からちょっと私申し上げておりますが、母子家庭あるいは父子家庭、ひとり親家庭等とも多くの方が生計と育児の2つの役割を担うということを大変ご苦労されているわけですが、その両方の負担を負いながら生活を送らなきゃならない精神的、肉体的な、あるいは経済的な、もういろいろな、先ほどから申している問題を抱えておられます。そういうことでございますので、これらの家庭に係る負担を軽減しながら、家庭生活の安定と自立促進を支援するために、国、県、市町村の公共団体、ボランティア団体等の事業等からあらゆる事業を活用しながら、父子家庭、母子家庭における子供さんから本当に将来の安心と希望につながるよう、地域ぐるみで取り組んでまいりたいというふうに考えておるわけでありまして。具体的には児童扶養手当の支給もございますし、医療費の助成、福祉資金の貸し付け、就職に有利な資格取得の支援、就労支援、住まいの支援、それぞれの家庭が今必要としている支援に着実に結びつくように支援をしてまいりたいというふうに考えています。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） その中で私もさっき言いましたけども、職業訓練というふうに書いてあるんですけども、当出雲崎においてはそういう場所とか……何かそういうあるかないかというのも理解していないんですけども、どうなんでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 課長が答弁します。

○議長（山崎信義） 保健福祉課長。

○保健福祉課長（河野照郎） これも事務的な具体的な事業になりますので、私のほうからお答えさせていただきます。

ひとり親家庭の福祉に関する就労関係の事業につきましては、市町村はその窓口となる形で、あと県の事業あるいはハローワークの事業として資格を取得するのに経費を助成したり、現に就労に当たる支援をしたりという事業がございます。それは、細かく分けていろんな事業がございます、ただいずれにしてもそういう機関に市町村なり、または県の出先機関なりが繋がっていくという形をとっておりますし、そういう公共の事業以外でも民間のNPO法人であったりとか、一般社団法人でも個々にそういう事業がたくさんございます。これは、その方々のケースに応じてどういった形の支援が最もいいかという窓口を相談を受けた中で、最も効果のある具体的な事業につなげていきたいというものでございます。

以上です。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） 国とか県の政策の中で、推し進めた中で当出雲崎もそれに乗ってやっていると

いうふうに理解させていただきました。

4番目の高齢者福祉に入りますが、これは加藤議員さんや、また高桑議員さんのほうでいろいろ質問された中で、町もそれに沿って一段と努力するというような答弁でしたので、これは省かせていただきます。

5番目の障害者児童福祉について質問させていただきます。いろんな障害をお持ちの方が本町にいられることは私も承知しております。そして、高齢者と障害者のみの世帯が増加しているとも私も把握しております。さらに、当町はふれ愛サポートセンターいずもぎきを拠点として障害福祉サービスの充実を図っていることも、これも承知しております。その中で、この計画の中では施策の方針の中で6つ示されておりますが、その中の1つをお聞きするわけですが、障害児を持つ家庭に対する保育サービスを充実し、児童の健全育成を図るというふうに文章にうたってありますが、これを具体的に、じゃ今こういうふうに行っているし、今後またこういうふうにしますよというのがあれば聞かせていただきたいと思います。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 障害児を持つ家庭に対する保育の充実についてでございますが、保育所にその方々を受け入れる態勢の整備を図るために、障害児を受け入れた保育所に対しまして、保育士の加配、そのための、人員配置なり、あるいはそのために必要となる人件費を町単独で補助しておるといった実態がございます。平成27年度におきましては、2つの園に対しまして462万5,000円を町単独で助成をしていると。また、放課後児童クラブにおきましては支援員を増員をし、特別な支援が必要な児童の受け入れを行っているという実態です。多様化する障害児やその家庭のニーズやお困りの間を町としてもしっかりと、先ほどから申し上げるように、受けとめながら社会の中で自立した日常生活をされるように行政としてもきめ細やかなサービスを実施してまいりたいというふうには考えていますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） では、ちょっとお聞きしますけども、障害児を持つ児童に関してでございますが、当町にいられるんですけども、その中で町外のところに連れて行ってされているのがあるのか、ないのか、それともそういうふうなきめ細かなのは当町はやっているのかどうか、その辺はどういうふうに理解したらいいでしょう。

○議長（山崎信義） 保健福祉課長。

○保健福祉課長（河野照郎） 障害児のお子さんの障害福祉サービスの件かと思いますが、障害福祉サービスにつきましては障害福祉サービス事業所というのがございます。お子さんに対する事業所は、いろいろな障害の程度に応じまして当町にある事業所で当町では対応できない事業所もございます。当町で対応できない障害福祉サービスの事業につきましては、町外の近隣の市の事業所に通所、または重度になれば通所、入所等をして障害福祉サービスを受けているという状況でございます。

す。

以上です。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） そうしますと、当然障害ですので、町で障害の方を知るのか、町外に行くというか、いろいろ家族で大変ですよ。その大変な中では、今言う補助を出しているということですが、そういうふうな補助的なのはやっつけられるというふうな方は町に何か要望とか、そういうのはあるかないかはどうですか。補助金的なもっとういうふうにしてもらいたいとか、そういうふうな町の力をかりたいとかいうふうなのは来ておりませんか。

○議長（山崎信義） 保健福祉課長。

○保健福祉課長（河野照郎） 障害といいましても非常に障害という範囲が広がるございまして、いわゆるちょっと支援を必要とする方からかなり医療機関にやらなきゃならない程度の重い方まで非常に障害は幅広いですし、しかも個人個人に極めて一人一人の容体が全て違います。それらを総合した中では、法律で一定のいわゆる障害の認定を受けた方については国の制度の中でそういうサービスを受ける制度がございまして。ただ、その一定の制度にまだ至らないけども、成長過程において支援が必要な方については市町村または県等でそういう事業で支援している方もございまして。当町もそういった方で早い時期にそういった障害を発見して支援をしていきたいというふうなことで、現在は近隣の市町村との協力をいただきながら早期療育事業を行っておりますし、近いうちに町内でもそういったサービスが提供できる施設をつくるべく今作業を進めているところでございまして。ただ、やはり非常に医療機関ですとか、そういうサービス事業所とか多職種にわたります関係で、全てのサービスを当町内で賄うというのは現実的な話ではございませぬので、中越圏域なりの広域の中で最もその人に適したサービスが提供できるようにきめ細やかに対応しているところでございまして、よろしくご理解をお願いいたします。

○議長（山崎信義） 2番、中野勝正議員。

○2番（中野勝正） ぜひまた保健福祉課を中心にこれに関して頑張っていただけるようお願いして、私の質問を終わります。

○議長（山崎信義） 以上で2番、中野勝正議員の質問を終了します。

この際、しばらく休憩いたします。

（午後 零時08分）

○議長（山崎信義） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時30分）

◇ 三 輪 正 議 員

○議長（山崎信義） 日程第1、一般質問を続けます。

次に、6番、三輪正議員。

○6番（三輪 正） では、出雲崎の観光の振興についてで一般質問したいと思います。

観光客と、それと最近言われております交流人口をふやす体制づくりをさらに進めるべきだと考えるがということで質問したいと思います。

まず、1番としまして、当町の観光の現状と問題は何かということでございます。当町は、観光立町を目指してきずな、船まつりなどのイベント、最近では美食めぐり、またことしはまちあるきというような多彩なイベントを行っております。また、妻入りの街並の整備、観光施設の整備、情報発信について力を入れておりますが、その成果はどうか。また、問題について伺いたいと思います。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 三輪さんのご質問にお答えをいたしますが、ただいまご質問の冒頭に三輪議員さんがおっしゃったような状況の中で当出雲崎町の多彩なる入り込み客を求め、またリピーター客を求めながら全力を挙げて観光振興をあわせて町の活性化につなげたいということで努力をいたしているわけでございますが、近年の観光はもとより個性化、多様化しておりまして、観光客の行動にもいろいろと変化もあり、範囲も広域化、活発化しています。観光客の入り込み数につきましては、24年をピークにちょっと減少傾向になっておりますが、未来にわたるにぎわいをつくる町づくりを行っていくためには地域外からやっぱり人を入れ込むという必要があるんじゃないかと思っております。また、観光客が訪れたいくなるような、町民全体が皆さんを温かくお迎えいただけるその体制も非常に重要だというふうに考えているわけでございます。また、これからの観光も単なる出雲崎だけではなくて長岡広域圏あるいは柏崎広域圏等、自治体の広域での連携も整備をしながら進めていくべきだというふうに感じています。

○議長（山崎信義） 6番、三輪正議員。

○6番（三輪 正） 1番で現状ということでお聞きしまして、2番ですが、当町の今後の観光振興について伺います。

当町は、他の町村がうらやむような非常に歴史、文化に富んだ町でございます。特にことしは、そしてまた出雲崎が天領になりまして、1616年の年ですので、ことしがちょうど400年という節目になっております。そしてまた、佐渡金銀山というようなことで世界遺産のユネスコの申請はいろいろな問題によりまして若干おくれておりますが、いずれは申請されるものというふうになっておりまして、ことしの11月13日には佐渡市の主催で出雲崎町で金の道イベントが行われるというようなことで何回か来て、こちらのほうで打ち合わせをやっておられます。そんなことでそのほかに出雲崎は代官所ですとか良寛さんの生誕の地、芭蕉のゆかりの地、石油産業の発祥の地とか、北国街道のスタートの地とか非常にたくさんあるわけなんで、私は今後そういった今までの資源を生かす方

法、先ほどの1番のとき私はお話ししましたが、イベントは、イベントも私非常に大事だと思います。ただ、イベントをやらないとき、観光客の増にどの程度つながるかというふうなことがあるもんですから、やはり常時観光客をふやすと、交流人口をふやすにはやはり今あるそういった資源をいかに整備して、売り出していくかということになるかと思うんです。その辺の考え、町長どのように考えるか、ちょっとお願いいたします。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 入り込み客をふやすための方策たくさんあるわけでございますが、今三輪議員さんがおっしゃったようにいろいろな施策、いろんな行事等々をとりながら、やっぱり大勢の皆さんからおいでいただくということを主眼に事を進めているわけでございますが、それではそういうイベント等を行わないときの入り込みは、観光客はどうかということになります。確実にそれは出雲崎に来客、来町いただく方々の人数は減るであろうということは、これは当然のことでございます。

しかし、おっしゃるように最も出雲崎の貴重な文化あるいは史跡、あるいは歴史、あるいは自然景観というものを十分整備をしながら、あわせてそういう施設を見学に来町いただくとともに、やっぱり多彩ないろいろなイベントはやっぱりやっていかなければならんというふうに考えています。ただし、そのイベントをマンネリ化してはならない。やっぱり先ほど来いろんな質問にお答えをしているんですが、いろんな歴史的な、現実的に情勢は大きく変わっているということでございますので、私はやっぱりこれから考えなければならんことは出雲崎のこの良寛さんを初め、妻入り、あるいはまた今おっしゃった金銀荷揚げ、いろいろな歴史的な事実、そういうものもあるわけですが、しっかりと出雲崎固有のそういうものはさらにさらに磨きをかけると。あわせて、単に出雲崎ということは、これは言うなれば点でございますので、これを面的な拾い方、ということはいわゆる皆さん言われているように、先ほど申し上げましたように単なる出雲崎だけではだめなんです。やっぱり大勢の皆さんからおいでをいただくためには出雲崎との、また他市町村とのいわゆるもろもろの観光資源を共有しながら、やっぱりいろいろそれを訪ねていただくルート等の開発等、面的な面をしっかりとこれから構築していかなければならんというふうに私は考えています。それだけに今これからも柏崎地域との観光策定ビジョン会議等にも仲間入りをさせていただいていますし、先般、今回の議会でもご提案を申し上げますところの良寛アニメを初めとするいろんな一つの事業の展開、さらに有形文化財に良寛記念館は指定されたわけでございますが、これからは日本の文化遺産を目指すというようにいろいろな面の創意工夫を凝らしながら、やっぱり点から、点を線として、線を面とするといういわゆる充実した観光事業というものを計画、政策を進めていかなければならんというふうに考えています。

○議長（山崎信義） 6番、三輪正議員。

○6番（三輪 正） では、3番に参ります。

特に私がちょっと今回提案したいんですが、今ほど非常に出雲崎は観光資源が豊富だというようなことですが、一応観光関係の団体、例えば観光協会ですとか、または商工会、それと施設ですと良寛記念館、天領の里、妻入り会館、陽だまり館、それから良寛逸話館とございます。そしてまた、行政のほうでは産業観光課、それから教育委員会、建設課等が関連している部署でございます。そのほか団体としましては、今一生懸命、街歩き等で活躍されておりますボランティアガイドさんの方、それから妻入りの街並を保存ということで、妻入り推進協議会さん、また小木ノ城の史跡保存会ですとかございます。

そのほか特に私実は7月ですか、長岡の駅に観光案内所があります。それで、そこに行きまして、出雲崎の観光というか、お客さんの反応ってどうですかというふうにお聞きしました。そうしたら、その方が出雲崎と寺泊を比較されたんです。近いのは出雲崎なんだけど、残念ながらバスの本数が少ないということを言われました。もっとも出雲崎に来られる方が全てがバスとかを利用しているわけじゃないんで、今圧倒的に車で来る方が多いんで、全てじゃないんでしょけども、そんなふうに言われました。そんなことで私出雲崎の観光客、交流人口をふやすには観光関係だけじゃなくて、直接じゃなくて、例えばバスの関係ですとかJRさんとかタクシーだとか、そういった方のまた連携も必要じゃないんだろうかというふうに思います。そして、今町長が言われましたように広域的な件ということになると、ここですと長岡の振興局ですとか、あと広域圏とかまたがるわけです。

私提案したいのは、先ほどの福祉のとき、町長さんは高桑議員、それから中野議員のときも要するに連携と総合的な取り組みが大事だということは何回も強調されておったんですが、私この観光につきましても同じことが言えると思うんです。観光も非常に裾野が広いもんですから、やはり私は出雲崎町の観光推進会議というか、そんな形で、私セクションをつくるということじゃなくて、それぞれもうセクションは一生懸命やっていますので。ただ、出雲崎の観光の問題点とか、こういうところに力を入れたらいいんじゃないかとか、出雲崎の観光はこういうところを目指すんじゃないかというものをやはり思いなり考えをある程度共有する必要があると思います。また、情報なりも共有する必要があると思うんです。ある団体なり課は、非常にそういうことわかるけど、そのほかの方は余り知らないということでもったいないですよ。ことしは例えばこういうふうな年だから、こういうふうなのに入れようじゃないかとか、今世の中はこうだから、こういうふうなのに入れようじゃないかとか、各課とか各団体さんも例えば今地方創生ということでいろいろ頑張るところについては、非常に国もいろいろ助成やっていますけど、そういったものもお互いにし合って、こういったのがあるから、観光関係にはこれをうまく生かしたらいいんじゃないかとかいうふうな形を、やはりあるお金を何か有効にもらえるのは極力もらって、それを有効に使うとか、そういうふうな1つの部署だけじゃなくて、いろんな方がやっぱり情報なりを知っていたほうが非常に進めやすいと思うし、特に私はこの出雲崎の観光について何を力を入れていくべきか、何を目標にすべ

きかといったものをぜひ一堂にそういう機会を設けてもらって、やはり思いを一つにして、俺は一生懸命やっているんだけど……みんな一生懸命です。本当すごいなと思います。ただ、それが一生懸命なのが1つの方向へある程度なればいいんですけど、俺はこっちだと、俺はこっちだというふうな形があるんで、その辺町長、ぜひ考えていただけないでしょうか。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 三輪議員さんからこれからのさらなる観光振興、充実を図るためにはそれぞれの皆様方とのかかわる人たちの連絡協議会議というようなものをつくったらどうかというご提案でございますが、確かにそれなりの私はそれなりの内容と三輪さんのご意見等には賛同もいたすわけでございますが、しかし現実的には船まつりにしようと、美食めぐりにしようと、あるいはまたまるごとオーナーにしようと、またグリーンツーリズム、来月行われるわけですが、全ての面の行事あるいはいろんな企画に関しましては、それぞれの団体との連携、打ち合わせは密に行っているわけでございますので、そういう中における、会議の中におけるまた新たな観光振興にかかわるご提案等々もあるわけでございますし、私は連絡会議をつくる、屋上屋を重ねることもいかなもんかなとは考えておりますが、しかしそのようなご提案でございますので、今後のいろんなこれから具体的に行事を進める中における関係団体との会議もありますので、そういうことについての各団体のご意見等も承りたい。連絡会議をつかって、そのものが結果的に大きなインパクトを与えるということも、今までやってきたわけですから、その延長線であればいいというだけじゃないんですが、その会議の内容をさらに単なるその一つの個の事業でなくて、こういうことを通しながら、さらにこの面的な整備を進めるためにはどうあるべきか、ご提案があるかどうか、そういう点をまた問題点を投げかけながらまたご理解をいただき、適切なるまた進言をいただくということも必要かなと思っておりますが、今の点は提案として受けとめながら、それぞれ協議をしながら、重ねて申し上げますが、屋上屋を重ねる会議だけが本論じゃございませんので、内容とその目的がしっかりしておらないと形骸化する可能性がございますので、ご提案はご提案と受けとめながら前向きに検討しながら、また今後の観光振興についてさらなる努力をしてまいりたいと思っております。

○議長（山崎信義） 6番、三輪正議員。

○6番（三輪 正） 今の町長の答弁ですが、同じものをまた重ねるんじゃないかと、私はやっぱり情報の共有というか、これはぜひ必要だと思うんです。だから、おら関係ねえじゃなくて、みんなお互いに自分の分野で協力していこうじゃないかとかいうふうな、横の連携とろうじゃないかということなんで、ぜひお願いしたいなと思っております。

それで、2番にちょっと戻りますけども、例えば今のこの各部署の関係もありますけれども、私も以前から、よく皆さん言うんです。妻入りの街並を外部の方、町内の方は以外と余り評価しないんですけど、当たり前だというんですが、外部の方に聞きますと非常にこれは宝じゃないかと、何であれをもっと生かさないんだというふうな形があるんですが、あれも一つ、特にいろいろな関係

団体というか、部署が絡んでおりますので、街並の整備一つとっても例えば街並がいいですよって、ぜひいらっしゃい、いらっしゃいと言ってもなかなか皆さん余り満足しないと思うんです。例えばただ街並があるばっかじゃなくて、それに対して何か休むところがあるとか、例えば何かお店があるとか、そういったのもやっぱり今楽しみなんです。そういったものについてもやはり1つの部署だけなり、1つの団体だけでなかなかそれをやるというのは難しいと思うんで、それこそオール出雲崎の関係でやればいいんじゃないかなと。

ちょっと余談ですが、午前中の質問の中に町長さんのほうでポケモンの話が出ましたけれども、ある方があれだけ天領に一遍で、少しは街並に行ってくればいいんだがのなんて言っていましたけど、それが果たしていいのかどうかわかりませんが、そういったあたりで何かせっかくの街並ですから、ただ保存して空き家が増えたとか嘆くばっかじゃなくて、何か逆にあれを生かすというふうなこともぜひやってもらって、それが私は本当に出雲崎の観光についてはやっぱりあの街並をいかに生かすかということじゃないかなと思うんです。その辺の町長さんのまた思いなり、今後の考え方をちょっとお願いしますが。

○議長（山崎信義） 町長。

○町長（小林則幸） 三輪議員さんのご意見あるいは常に申し上げておりますところは、出雲崎も歴史、文化いろいろございますが、やっぱり出雲崎の最も、またそれなりの景観として皆さんからもいろいろと話題となっております妻入りの街並は、まずこれは日本でも珍しいんじゃないかと思うんです。そういうものの単なる妻入りが連坦をしているというその景観だけじゃなくて、やっぱりそこに大勢の皆さんからおいでをいただく導入性もしっかりと構築しなければならんということで、全く試行錯誤をもう相当重ねて検討を進めてまいっているわけでございます。率直に申し上げまして、その具体的なこれはという成果は上がっていないという事実を私は大いに反省をしながら、さらに今三輪議員さんが提案されているような形をいかに具体化しながら、さらに大勢の皆さんからおいでいただくか、これ非常に大きな課題です。そのために、今拠点整備なりいろいろ進めているわけでございますが、私も常に申し上げていますように単なるそういう景観の中に、それはどこのやっぱり皆さんもいろんなところへ行っておいでになっているんですが、これがここに何十万のお客さん来るかと思われるような、出雲崎の妻入りと比較しましても妻入りは伍して劣らぬわけですが、なぜ出雲崎にはおいでいただけないかなというような、全く私は残念に思っております。それだけにそういう古い歴史的景観を残している施設、そういう地域もその中にやっぱり大勢の皆さんがおいでいただいている。それをもてなすいろいろな施設がたくさんあります。そういう点が出雲崎は欠けているんです。そこに、出雲崎固有の何か、今和食遺産というようなことも叫ばれておりますが、サザエの炊き込み御飯等もございます。そういうものをやっぱりああいう街並の中でおいでいただいた方から本当に景観を楽しみながら食していただき、休憩していただき、また懇談をいただくというような機会や場所が必要だと。もうなかなかそう思いつつもそのものは具体的に実現

をしておらないということでございますので、単に協議会をつくって意見、相当やってきました。もう私が町長に就任した当時から妻入りにかかわる大学の教授に依頼して、もう5年、10年と重ねながらご提案いただいているんですが、古くて新しき問題として常にこれは話題なんです、成果が上がっておらない。そういう点を総括をしながらどうあるべきか、またさらに検討していかなければならないというふうに考えています。

そういう意味合いにおきまして、協議会あるいは研究会もいいんですが、私はその中でよくやっていたのは妻入りの街並の保存をしていただく協議会です。常にああいう、もういろいろな一つの資料を町民の皆さんに提供したり、パンフを出したり、すごいと思うんです。ああいう皆さんのご努力を私は本当に多としているんです。だから、そういう皆さんのご努力が水泡に帰さないように行政としてもさらにそれを裏打ちをし、皆さんのご努力に答えが出るように頑張っていかなきゃならんというふうに考えていますので、今後改めてまた皆さん方からもひとつご努力、ご意見提供もいただきながら、私たちも一生懸命妻入りの街並に対するもう少し光を当て、充実した観光地としての一つしっかりした拠点をつくっていきたいなと思っていますので、いろいろまたご意見等も伺ってまいりたいと思います。

○議長（山崎信義） 6番、三輪正議員。

○6番（三輪 正） 以前町の役場の中で横断的な組織というふうなことでたしか立ち上がったかと思うんですが、その辺の活動状況なり成果とか、その辺ちょっとお聞かせいただきたいんですが。

○議長（山崎信義） 三輪議員、できたら具体的に言ってもらいたいんですけど、何かありますか。

○6番（三輪 正） じゃ、これはまた別個にお聞きいたします。

今町長のほうから言われた、とにかくやっぱりオール出雲崎という形をぜひ今後ともまた強く持ってもらって、とにかく観光立町というか、これ観光ばっかじゃないですから、例えば雇用の場ですとか交流人口とか、あと産業の育成になるわけなんで、ただ観光だけというふうに考えないで、ぜひこれを強く意識して進めていただきたいと思います。

これで私終わります。

○議長（山崎信義） 以上で6番、三輪正議員の質問を終わります。

これで一般質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（山崎信義） 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

（午後 1時53分）